

愛知医科大学学報



基礎科学棟へと至るアサガオ

＝ 第179号 ＝
2025.7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

— 愛知医科大学ホームページアドレス —

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

事務局長就任ごあいさつ	2
春の叙勲の榮譽	3
令和8年度学生募集概要	4
令和6年度愛知医科大学決算	10
教授就任インタビュー	20
国家試験日程のお知らせ	22
令和7年度看護学部キャンドルセレモニー挙行	25
病院長所信表明	29
大学病院の中央診療部に新たな部門設置	29
愛知県副知事による医療コンテナ視察	30
愛Crewスタートから4周年を迎えて	31



—事務局長就任にあたって—

事務局長 長谷川 洋

この度、令和7年7月1日付けで愛知医科大学事務局長に就任致しました長谷川洋です。

昭和47年の開学以来、50有余年の歴史と伝統を誇る愛知医科大学の、高度な教育・研究・医療を支援する事務局の運営に携わる重責に身の引き締まる思いでおります。

今後は、本学の更なる発展に向けて、微力ではありますが、全力を尽くす所存でありますので、教職員の皆さま、学生の皆さま、そして関係各位のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、少子高齢化の加速、AIやデジタル技術の急速な進展、不安定な世界情勢など、社会は目まぐるしく変化し、先行きの見通しにくい予測困難な時代を迎えています。このような先行き不透明な社会状況の中、私立医科大学を取り巻く環境は、超高齢化に伴う疾病構造の変化への対応、医療DX・デジタル化への対応、更に、医療材料費、光熱水費及び人件費の高騰によるコスト圧力の高まりと、それに対応しきれない診療報酬改定に起因する収支の大幅な悪化などにより、厳しさを増しています。

本学におきましても、経常収支黒字化による持続可能な財政基盤の確立は、待ったなしの課題であり、そのほかにもアフターコロナにおける病院経営・大学運営の立て直し、質の高い教育研究環境の確保、高齢化に伴う疾病構造の変化に対応したりハビリ医

療・救急体制の革新など、課題は山積しています。

こうした時こそ、本学の学是である「具眼考究」にあるとおり、確かな眼、見通す眼を持って正しくみることによって物事の本質を見極め、的確に対処することが何より大切になります。

これまでの事業投資や成果を基盤として、医科大学として教育、研究、診療の三つの使命を果たしながら、「社会から評価され選ばれる医科大学であり続けること」をめざして、こうした課題に対して「具眼考究」の視座から、迅速かつ柔軟に対応し、「建学の精神」である「良き医療人を育成し、地域に役立つ」という目的を実現していくことが求められていると思っています。

教育、研究、診療の三つの役割を下支えする事務局として、現場の皆さまの声を丁寧にお聞きしながら、教職員の皆さまと連携協力して円滑な事務局運営を進めて参りたいと存じております。風通しの良い組織運営と安心安全な働きやすい職場環境づくりを心掛けるとともに、まだまだ十分に知られていない地域医療に貢献する本学の特色、魅力を広く社会に発信するような取り組みにも力を注いで参りたいと考えております。

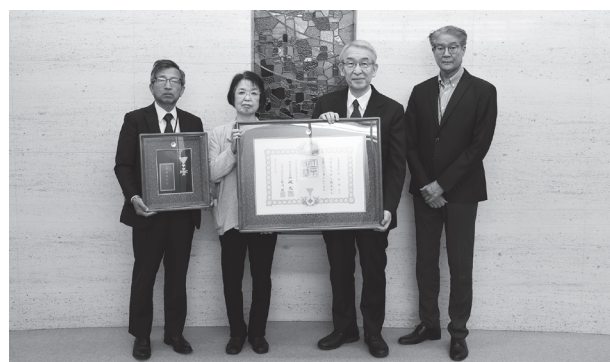
愛知医科大学の更なる飛躍発展に少しでもお役に立てるよう誠心誠意、力を尽くして参りたいと存じております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

丹羽 玲子元技師長 春の叙勲の荣誉

本院輸血部元技師長の丹羽玲子さんが、令和7年春の叙勲において瑞宝双光章を授与され、令和7年5月21日（水）にホテルニューオータニ東京において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

丹羽さんは、昭和56年から本院中央臨床検査部に臨床検査技師として勤務され、平成9年に輸血部開設に伴い異動されました。輸血に関する業務の一元化など輸血部の体制構築の一翼を担い、平成27年に技師長へと昇任されると、部下の育成や第三者による外部評価の取得など、現場と経営のマネジメントに務められました。

また、学会にも積極的に参加し、輸血検査、輸血用血液・血漿分画製剤管理、輸血副反応などの研究成果を発表するとともに、愛知県や中部地区の輸血検査研究班班長を歴任し、令和元年愛知県医学検査学会会長を務められるなど愛知県や中部地区、ひいては全国レベルにおける輸血検査・輸血管理の向上に様々な形で貢献されました。令和2年に定年退職を迎えられた後、再任用職員として令和7年3月まで本院輸血部業務に従事されました。



祖父江元 理事長等との記念撮影
(左から2番目：丹羽さん)



瑞宝双光章賞状

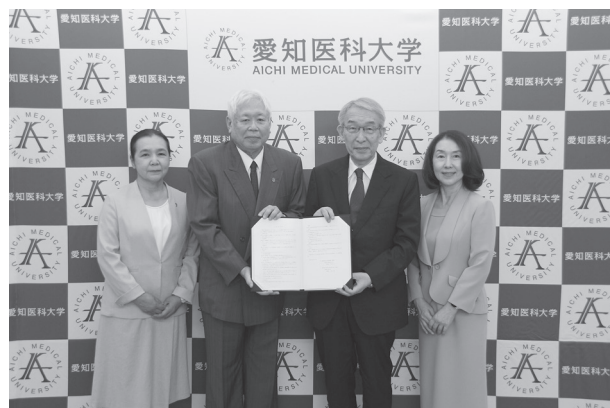
地域医療機関「看護機能連携」による新たな取り組み開始 ～福友病院との看護職員派遣に関する協定締結～

本院では令和2年度から地域の医療機関と「看護機能連携ネットワーク」を立ち上げ、「看護の力で地域包括ケアシステムを推進」をビジョンに掲げ様々な活動に取り組んで参りました。従来の人材交流を更に発展させる形を検討する中で、地域の医療機関全体で看護師の人材を育成し確保するとともに、継続的なキャリア形成も踏まえ人材を循環させる体制の構築を目指しています。

近年、看護師不足は深刻化しており、日本看護協会では「地域全体で看護職員を育成・確保、共有する」ことを提案しており、本院の取り組みはこれを具現化することにほかなりません。

このたび、本学の出向制度を活用して看護師不足を抱える連携ネットワーク病院へ人材を送るという取り組みが令和7年8月から新たに開始されることとなり、第一弾として愛知県日進市の福友病院へ若手看護師5名を4か月間派遣することとなりました。

これに先駆けて令和7年7月30日（水）午前10時から、大学本館役員会議室1において「福友病院との看護職員派遣に関する協定締結式」が行われ、医療法人福友会の浅井哲也理事長（福友病院院長）及び福友病院の坂井田法子看護部長ら関係者と、本学



締結式にて（左から坂井田看護部長、浅井理事長、祖父江理事長、井上看護部長）

から祖父江元 理事長・学長及び本院の井上里恵看護部長を始めとする関係者が出席しました。締結式では本協定締結に伴う今後の展望が各出席者から語られ、記念撮影が行われました。

今年度は福友病院を始めとする地域の医療機関へ30人程度の派遣を予定しています。看護の力で地域包括ケアシステムを推進し、地域全体の看護の質向上と人材確保・育成につながることを期待します。

令和8年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程					
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
学校推薦型選抜（公募制）	約20名※1	11/1～11/10 [消印有効]	11/22	本 学	12/4
学校推薦型選抜 （愛知県地域特別枠A方式）	約5名※2				
国際バカロレア選抜	若干名				
一般選抜	約70名	12/1～1/7 [消印有効]	第1次試験 1/20	名古屋，東京 大阪，福岡	1/29
			第2次試験 2/5・6 （いずれか希望する日）	本 学	2/12
大学入学共通テスト 利用選抜	約15名	12/1～1/16 [消印有効]	第1次試験 1/17・18 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	2/12
			第2次試験 2/19	本 学	2/26
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）	約5名※2	12/1～2/25 [消印有効]	第1次試験 1/17・18 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	3/3
			第2次試験 3/10	本 学	3/12

※1 国際バカロレア選抜若干名を含む。

※2 愛知県地域特別枠はA方式・B方式合わせて10名を選抜。

◆入試科目・配点・時間					
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目※1		配 点	時 間
学校推薦型選抜（公募制） （愛知県地域特別枠A方式）	小論文			5段階評価	60分
	基礎学力試験 （数学）	『数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B（数列）， 数学C（ベクトル，平面上の曲線と複素数平面）』		100点	60分
	基礎学力試験 （外国語）	『英語コミュニケーションⅠ，英語コミュニケーションⅡ， 英語コミュニケーションⅢ，論理・表現Ⅰ，論理・表現Ⅱ， 論理・表現Ⅲ』		100点	60分
	面接（個人面接）			5段階評価	—
国際バカロレア選抜		書類選考・小論文・面接（個人面接）			
一般選抜	第1次試験	理 科	『物理基礎，物理』，『化学基礎，化学』，『生物基礎，生物』 の3科目のうち2科目選択	200点 （各100点）	100分
		数 学	『数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学A，数学B（数列）， 数学C（ベクトル，平面上の曲線と複素数平面）』	150点	80分
		外国語	『英語コミュニケーションⅠ，英語コミュニケーションⅡ， 英語コミュニケーションⅢ，論理・表現Ⅰ，論理・表現Ⅱ， 論理・表現Ⅲ』	150点	80分
	第2次試験	小論文		5段階評価	60分
		面接（個人面接）		5段階評価	—
大学入学 共通テスト 利用選抜	第1次試験 （大学入学共通テスト）	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）※2	100点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり
		数 学	『数学Ⅰ，数学A』，『数学Ⅱ，数学B，数学C』	200点 （各100点）	
		理 科	『物理』，『化学』，『生物』の3科目のうち 2科目を選択	200点 （各100点）	
		外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※3	200点	
	第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）		試験内容は大学入学共通テスト利用選抜と同様			

※1 詳しくは学生募集要項を参照して下さい。

※2 「国語」は110点を100点に換算します。

※3 「英語」はリーディング100点を160点に，リスニング100点を40点に換算します。

令和8年度看護学部看護学科学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
学校推薦型選抜	指定校制	約15名	10/14～10/28 [消印有効]	11/8	本 学	11/18
	公募制	約20名				
社会人等特別選抜		若干名				
一般選抜		約45名	12/15～1/13 [消印有効]	1/25		2/4
大学入学共通テスト併用型選抜		約5名	12/15～1/23 [消印有効]	一般選抜及び大学入学 共通テスト日程参照	本学及び大学入学共通 テスト受験会場	2/12
大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	約10名		1/17・18 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 受験会場	
	B方式	約5名				
◆入試科目・配点・時間						
区分		出題教科	選考方法及び出題科目		配点	時間
学校推薦型 選抜	指定校制	面接			—	—
	公募制	国 語	『現代の国語, 言語文化 (古文・漢文を除く。), 論理国語』		100点	45分
		数 学	『数学Ⅰ, 数学A』※1		100点	45分
		外国語	『英語コミュニケーションⅠ, 英語コミュニケーションⅡ, 論理・表現Ⅰ』		100点	45分
		面接 (個人面接)			—	—
社会人等特別選抜		小論文		—	60分	
		面接 (個人面接)		—	—	
一般選抜		国語・数 学	『現代の国語, 言語文化 (古文・漢文を除く。), 論理国語』, 『数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A』から1科目を選択 ※1 ※2		100点	60分
		理 科	『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』から1科目を選択		70点	45分
		外国語	『英語コミュニケーションⅠ, 英語コミュニケーションⅡ, 論理・表現Ⅰ』		100点	60分
大学入学 共通テスト 併用型選抜	一般選抜	国語・数学	『現代の国語, 言語文化 (古文・漢文を除く。), 論理国語』, 『数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A』から1科目を選択 ※1 ※2		2教科 200点	60分
		外国語	『英語コミュニケーションⅠ, 英語コミュニケーションⅡ, 論理・表現Ⅰ』			60分
	大学入学 共通テスト	国 語	『国語』(近代以降の文章) ※3		高得点 2教科 200点	400点
		地理歴史・ 公民	『地理総合, 地理探究』, 『歴史総合, 日本史探究』, 『歴史総合, 世界史探究』, 『公共, 倫理』, 『公共, 政治・経済』, 『地理総合/ 歴史総合/公共』から1科目を選択			
		数 学	『数学Ⅰ, 数学A』, 『数学Ⅱ, 数学B, 数学C』から1科目を選択			
		理 科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』, 『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』から1科目を選択			
		外国語	『英語』(リーディング・リスニング) ※4			
	大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	国語・数学	『国語』(近代以降の文章) ※3, 『数学Ⅰ, 数学A』, 『数学Ⅱ, 数学B, 数学C』から1科目を選択		100点
理 科			『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』, 『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』から1科目を選択		100点	
外国語			『英語』(リーディング・リスニング) ※4		100点	
B方式		国 語	『国語』(近代以降の文章) ※3		100点	
		地理歴史・ 公民	『地理総合, 地理探究』, 『歴史総合, 日本史探究』, 『歴史総合, 世界史探究』, 『公共, 倫理』, 『公共, 政治・経済』, 『地理総合/ 歴史総合/公共』から1科目を選択		100点	
		数 学	『数学Ⅰ, 数学A』, 『数学Ⅱ, 数学B, 数学C』から1科目を選択		100点	
		理 科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』, 『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』から1科目を選択		100点	
外国語	『英語』(リーディング・リスニング) ※4		100点			

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。

※3 国語は、110点を100点に換算する。

※4 外国語は、200点を100点に換算する。

令和8年度大学院医学研究科（博士課程）学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和7年8月1日（金）から
令和7年8月15日（金）まで（必着）
試験日：令和7年10月3日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和7年10月28日（火）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和7年12月1日（月）から
令和7年12月15日（月）まで（必着）
試験日：令和8年1月30日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和8年2月27日（金）

3 試験項目・時間

試験項目	時 間
外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※外国人志願者は外国語試験を免除する。	10：00～ 12：00
面接試験 （志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。）	13：00～

令和8年度大学院看護学研究科（修士課程）学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域	コース
基礎看護学	基礎看護学 看護管理学	修士論文
母子看護学	母性看護学 小児看護学	
成人・老年看護学	慢性看護学	
精神・在宅・地域看護学	精神看護学 在宅看護学 地域看護学	
高度実践看護学	感染看護学	高度実践看護師 （専門看護師[CNS]）
	臨床実践看護学	高度実践看護師 （診療看護師[NP]）

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和7年8月4日（月）から
令和7年8月18日（月）まで（消印有効）
試験日：令和7年9月5日（金）

試験場：看護学部棟

合格発表：令和7年9月11日（木）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和8年1月5日（月）から
令和8年1月19日（月）まで（消印有効）
試験日：令和8年2月5日（木）
試験場：看護学部棟
合格発表：令和8年2月12日（木）

4 試験科目・時間

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小 論 文
11：00～12：30	専門科目（※）
13：30～	面 接

※ 専門科目の出題について

- 1 修士論文コース：志願する専攻領域
- 2 高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース：CNS関連分野
- 3 高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース：主な疾患の病態生理・治療及び看護

令和8年度大学院看護学研究科（博士後期課程）学生募集概要

大学院看護学研究科（博士後期課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人数

4名

2 教育分野

教育研究分野	専攻領域	コース
基盤看護学	基礎看護学	PhDコース 及び DNPコース
	精神看護学	
	感染看護学	
成育・療養支援看護学	母子看護学	
	成人看護学	
	老年看護学	
包括・実践看護学	地域看護学	
	在宅看護学	
	高度実践看護学	

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和7年8月4日（月）から
令和7年8月18日（月）まで（消印有効）

試験日：令和7年9月6日（土）

試験場：看護学部棟

合格発表：令和7年9月11日（木）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ
実施

出願期間：令和8年1月5日（月）から
令和8年1月19日（月）まで（消印有効）

試験日：令和8年2月5日（木）

試験場：看護学部棟

合格発表：令和8年2月12日（木）

4 試験科目・時間

試験時間	試験科目等
9：00～ 10：30	英語〔辞書・電子辞書（通信機能が無いものに限る）使用可〕
11：00～ 12：30	小論文
13：30～ 15：00	専門科目（志願する専攻領域に関する内容）
15：20～	面接（研究計画書に基づくプレゼンテーションを含む）

加藤 延夫名誉教授（元理事長・学長）御逝去



本学元理事長・学長であり
名誉教授の加藤延夫先生が、
令和7年5月7日（水）にご
逝去されました。享年95歳で
した。メディカルセンター副

院長・加藤義郎先生のご尊父です。

加藤延夫先生は昭和29年3月に名古屋大学医学部を卒業後、同大学の医学部細菌学講座教授、医学部長、評議員及び総長などを歴任され、愛知芸術文化センター総長在任中の平成12年4月に本学第8代学長に就任し、本学が主要課題とする案件をつぶさに熟視・精査の上、改革構想の骨格を発表されました。また、平成13年1月の法人理事会では理事長を兼ねることが決定し、本学第6代理事長に就任されました。本学の改革は加藤先生の強力なリーダーシップにより着実に進行し、平成14年1月には高度救命救急センターの活動の拡大と飛躍をはかるため、本院を基地病院として、全国4番目のドクターヘリ事業が開始しました。

また、名古屋大学総長在任中も病原微生物学の

研究を継続され、同大学退職後に研究成果を論文として発表し、「細菌リポ多糖体(エンドトキシン)の結晶形成と結晶解析データに基づく分子構造の解明」は、世界最初の発見となりました。加えて、愛知県医師会を始めとする多数の学会で特別講演を行われ、日本エンドトキシン研究会名誉会員、日本細菌学会名誉会員に推挙されたほか、愛・地球博地球平和フォーラム愛知代表を務められるなど、社会貢献に寄与されました。長年にわたる教育・大学改革・国際協力への尽力と、細菌学・ウイルス学の研究に優れた業績を挙げ、学術の発展に貢献したとして、平成18年には瑞宝大綬章を受章しています。

更に、令和4年11月に举行された本学創立50周年記念式典においては、本式典の発起人を代表してごあいさつを賜りました。ここに加藤延夫先生に対する生前のご厚誼に感謝申し上げるとともに、哀悼の意を表し、謹んで御冥福をお祈り致します。



献血ご協力ありがとうございました

令和7年6月6日（金）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施されました。職員を始め多くの方にご協力いただき、本学における冬の献血に引き続き、夏の献血においても過去最多の受付数となりました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々は、ご自愛いただき、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願い

夏の団体献血（結果）

・ 献血受付数	・ 89名
・ 献血できた方	・ 67名 (400mL・51名)
・ 献血できなかった方	・ 22名

します。

今回は令和8年1月頃に予定していますので、ご協力をよろしくお願いします。

羽根田 雅巳事務局長ご退任 心からの感謝を込めて

事務局長 羽根田 雅巳

昭和52年4月1日に本学に採用され、大学病院事務部医事課の一員として、新しい病院を職員全員が丸となって作り上げるという強い連帯のもと、慌ただしくしていた頃が懐かしく思い出されます。以来48年間余、病院、大学、メディカルクリニック（現眼科クリニックMiRAI）、看護専門学校（現看護学部）での勤務を経験させていただき、いよいよ退職を迎えることとなりました。

振り返ってみれば、我々創成期の職員は何か一つのことに対して、仲間意識というか連帯感をもって取り組んできたように思います。一方、今の若い職員は良い意味での個人主義がごく自然に身に付いているように感じます。それはそれで良いことだと思いますが、職場における仲間との一体感の共有も必要なことだと考えます。色々な方法で絆を深めていくことは可能ですし、それが本学に対する帰属意識を強めることになると思います。

本学は、「愛知医科大学」という言葉から伝わってくるものが少ないと言えます。常に先を見て、常に何か新しいことに取り組んでいる、そういう期待感の持てる大学のイメージが上手く発信できていないと考えます。今、医療機関を取り巻く状況は、人件費の急騰、医療材料及び設備等の急騰により、職員の皆さんの大変なご努力にもかかわらず、厳しい経営環境が続いています。組織の経営者層が現実を直視した上で、正しい情報を正確かつ丁寧に組織内に伝えることで、健全なる危機感を広く根付かせ、職員一人ひとりの当事者意識をどのように高め、真の改革に繋げていくのか。全てはそこから始まると考えます。

今こそ、各専門職の強みを繋げながら、多様性の中から新たな価値を生み出せるような組織に変化さ



祖父江元 理事長からの花束贈呈



事務職員に見送られる羽根田事務局長

せなければなりません。全ての職種において、高い専門性を持ち、プロフェッショナリズムを発揮すべきと考えます。職員の意識改革なくして、本学の発展を図ることはできません。ともあれ、私にとって思い出の尽きない48年間余でありました。浅学菲才の小職をご指導いただきました上司先輩方はもちろんですが、同僚や後輩の皆さんにも支えられて何とかこれまでやってこられたことに深く感謝申し上げます。

本学は令和4年に創立50周年を迎えました。本学が選ばれる医科大学として、本院が求められる特定機能病院として更なる発展を期することと、職員の皆さんがますます健康でご活躍されることを祈念しまして、退職のごあいさつとさせていただきます。

皆さん本当にお世話になりました。ありがとうございました。

令和6年度愛知医科大学決算

令和7年5月26日（月）に開催された理事会及び評議員会において、令和6年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

■概要

本学は、財務・事業基盤の強化を目指し、令和元年度からの5年間の中期計画に基づき、イノベーションプロジェクトの推進を図って参りました。具体的には、メディカルセンターの開設、眼科クリニックMiRAIの開院、外来化学療法室の拡充、TACU（経過観察入院病棟）及び救急・災害管理棟等の整備、C棟休床病床の中央棟での復床といった施策を展開してきました。そしてこれらの事業の締めくくりとして、令和7年1月に《プロリハ》リハビリテーションが運用を開始したところです。

安定的な財政基盤の確立に向けて行ってきたこれらの取り組みは着実に実を結び、その結果、医療収入はイノベーションプロジェクトがスタートした令和元年度と比較して110億円超の増収となりました。特に令和6年度は、コロナ禍の間に蒔いた成長の種が開花・結実する年と位置付けて事業を進めた結果、令和5年度から令和6年度の医療収入は42億円増（109.4%）と大きく飛躍しました。

しかしながら、この医療収入を得るための事業支出規模も必然的に大きくなり、特にアフターコロナとなる令和5年度から顕著となった物価高騰・為替変動による光熱費・材料費・委託費増は想定を超えた負担となっています。このコスト増を吸収するためのコスト削減には予算段階から取り組みましたが、大きく削減することはできませんでした。また、人件費について、本学は給与規程に基づき国家公務員に準じて支給してきましたが、令和6年度の人事院勧告は約30年振りの高水準ベースアップであったこと、更に、医師の働き方改革による負担増や、事業規模の拡大による人員増によって、非常に大きな財政的負担の要因となりました。

人件費増による大幅な処遇改善は、離職防止と優秀な人材の確保、また、若手職員の定着率の向上に寄与するものであり、職員のモチベーションを維持するためにも必要であると判断したもので、人材確保及び育成のための先行投資の位置付けともなりました。

これだけのコスト増要因を解消するために、一般企業であれば商品・サービスの価格に上乗せするというのが企業経営であり、日々の暮らしの中で実際に物価高、値上げを実感するものではありませんが、本学の収入の8割を占める医療収入の柱は「診療報酬収入」であり、この診療報酬は公的価格であるため、急激なコスト増が生じた場合でも、診療報酬を病院の判断で引き上げることができません。6月の診療報酬改定も全くの期待外れとなりました。このような背景があり、令和6年度の経常収支は、昨年度に引き続き大変厳しい数字となりました。教職員の不断の努力にも関わらず、医療を取り巻く国の制度設計の矛盾に翻弄される1年となりました。

前述のような状況ではありましたが、医科大学の基本である教育には様々な取り組みを行い、医師国家試験の新卒合格率は98.0%、看護師国家試験及び保健師国家試験は新卒合格率100%としっかり結果を出すことができ

ました。研究面についても、研究環境を整備しつつ、外部資金と呼ばれる研究費の獲得状況は前年度を上回る水準となっています。本学は、「診療」だけではなく、「教育」と「研究」も行う医科大学であり、また、私立大学であることを鑑みると、この三つの機能、役割を十分に果たしていくために、これまでの事業投資や成果を基盤として、人的資源を含めて最大限生かしながら更なる発展に繋げて、財務・事業基盤の強化を目指して参ります。

更に、令和6年度の医療収入決算額は、令和5年度の446億円強を上回る488億円強（対前年度比+9.40%）を計上できました。一方、支出の中で大きなウェイトを占める人件費は、教員や病院スタッフの人的資源の確保を図り、人件費率が0.9ポイント上がり、42.4%となりました。また、大学の発展と今後の収入に繋がる事業は着実に推進しました。こうしたことから、事業活動収支差は28億3,599万円強のマイナスとなりました。

事業活動収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

（単位：百万円）

		科 目	金 額	前年差
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,901	1
		手数料	222	9
		寄付金	342	23
		経常費等補助金	2,022	△702
		付随事業収入	946	△102
		医療収入	48,896	4,202
		雑収入	913	245
		教育活動収入計	58,243	3,676
	事業活動支出の部	人件費	24,752	1,971
		教育研究経費	35,001	1,876
		管理経費	1,167	66
		徴収不能額等	6	△30
		教育活動支出計	60,926	3,884
教育活動収支差額		△2,683	△208	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	17	8
	事業活動支出の部	教育活動外収入計	17	8
		借入金等利息	207	△15
		教育活動外支出計	207	△15
	教育活動外収支差額		△190	24
経常収支差額		△2,873	△184	
特別収支	収入の部	その他の特別収入	99	△167
	事業活動支出の部	特別収入計	99	△167
		資産処分差額	41	2
		その他の特別支出	21	△39
		特別支出計	62	△37
		特別収支差額	37	△130
基本金組入前当年度収支差額		△2,836	△314	
基本金組入額合計		△3,959	551	
当年度収支差額		△6,795	237	
前年度繰越収支差額		△73,808	△7,032	
翌年度繰越収支差額		△80,603	△6,794	

（参考）

事業活動収入計	58,360	3,517
事業活動支出計	61,196	3,831

（注1）科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

（注2）＜－＞の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、＜0＞の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

資金収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位：百万円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	前年差	科 目	金 額	前年差
学生生徒等納付金収入	4,901	1	人件費支出	24,561	1,977
手数料収入	222	9	教育研究経費支出	30,458	1,704
寄付金収入	351	32	（うち医療経費支出）	(28,040)	(1,811)
補助金収入	2,064	△836	管理経費支出	805	6
（国庫補助金収入）	(1,378)	(△366)	借入金等利息支出	207	△15
（地方公共団体補助金収入）	(687)	(△469)	借入金等返済支出	924	△228
（若手・女性研究者奨励金収入）	(0)	(0)	施設関係支出	1,294	△1,049
資産売却収入	-	△36	設備関係支出	1,673	△586
付随事業・収益事業収入	946	△102	資産運用支出	60	△40
医療収入	48,896	4,202	その他の支出	7,771	△114
受取利息・配当金収入	17	8			
雑収入	913	230			
借入金等収入	1,060	960			
前受金収入	925	10			
その他の収入	9,299	△2,796			
資金収入調整勘定	△10,378	△755	資金支出調整勘定	△5,656	1,186
前年度繰越支払資金	7,641	△965	翌年度繰越支払資金	4,761	△2,880
収入の部合計	66,859	△39	支出の部合計	66,859	△39

(注1) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

(注2) <->の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、<0>の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

貸 借 対 照 表

令和7年3月31日現在

(単位：百万円)

資 産 の 部			負 債 の 部		
科 目	金 額	前年差	科 目	金 額	前年差
固定資産	44,732	△1,896	固定負債	24,742	△202
有形固定資産	42,978	△1,377	長期借入金	16,506	7
土 地	9,876	-	学校債	400	-
建 物	24,860	△695	長期未払金	810	△399
構築物	974	△123	退職給与引当金	7,026	190
教育研究用機器備品	5,959	△435			
管理用機器備品	318	57	流動負債	8,363	△956
図 書	901	△12	短期借入金	993	149
車 両	60	△31	1年以内償還予定学校債	60	△20
建設仮勘定	30	△140	未払金	5,883	△1,084
			前受金	936	15
特定資産	628	△151	預り金	491	△16
学校債償還引当特定資産	460	△20			
借入金返済引当特定資産	100	△100	負債の部合計	33,105	△1,158
医療機器等整備調整資金引当特定資産	25	△25			
国際交流推進引当特定資産	29	△3	純 資 産 の 部		
教育研究活性化引当特定資産	15	△3	科 目	金 額	前年差
その他の固定資産	1,125	△368	基本金	107,293	3,958
借地権	20	-	第1号基本金	102,982	3,792
電話加入権	5	-	第4号基本金	4,311	166
施設利用権	73	△15	繰越収支差額	△80,603	△6,794
ソフトウェア	443	△327	翌年度繰越収支差額	△80,603	△6,794
有価証券	11	-			
長期貸付金	572	△27	純資産の部合計	26,691	△2,836
保証金	0	-	負債及び純資産の部合計	59,796	△3,994
預託金	0	-			
流動資産	15,064	△2,098			
現金預金	4,761	△2,880			
未収入金	9,427	773			
貯蔵品	449	△5			
短期貸付金	248	8			
立替金	2	1			
前払金	178	6			
資産の部合計	59,796	△3,994			

(注1) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

(注2) <->の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、<0>の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

■前年度との比較（主な増減）

（1）事業活動収支計算書

令和6年度決算は、事業活動収入58,360百万円（前年度比6.4%増）、事業活動支出61,196百万円（前年度比6.7%増）となり、この収支差額は、△2,836百万円となりました。経常的な収支バランスである経常収支差額は、△2,873百万円となり、臨時的な収支バランスの特別収支差額は、37百万円となりました。経常収支差が前年度から184百万円悪化、医療収入額は前年度から4,202百万円増加しています。

（2）資金収支計算書

資金収入の部合計は、669億円の前年対比3,871万

円の減少となっていますが、調整勘定等を除く実質的な収入は約16億8,100万円の増収、同様に実質的な資金支出の部合計は、16億5,500万円の増加となりました。

（3）貸借対照表

資産総額は前年比△39.9億円（6.3%）減少の598億円となりました。また、純資産額は前年比△28.4億円（△9.6%）減少の267億円となりました。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。<https://www.aichi-med-u.ac.jp/files/soumu/R06zen.pdf>



教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金のご協力をお願い



学校法人 愛知医科大学
理事長 祖父江 元

愛知医科大学は、昭和46年に設置認可を受け、翌昭和47年4月に医学部の第1回生を迎え入れました。その後、大学院医学研究科、看護学部、大学院看護学研究科を開設し、現在は2学部・2大学院体制となっています。

本学は「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針とし、学是「具眼考究」の理念の下、教育・研究・診療の各分野で勇往邁進に取り組んで参りました。

今後、更に社会から評価され、選ばれる医療人の育成、安心・安全の信頼できる先進医療の提供、地域とともに歩む医療の推進、新たな医学・医療の開拓、将来へ向けたキャリアパスの描ける場の提供など、時代の変化に合わせた、あるいは先取りする柔軟な変革に取り組んで参ります。

より良い大学、より良い病院となるため、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金要項

① 募金目的

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業

② 募金1口の種類

個人：1万円 法人：5万円

（できるだけ多数口のご支援をお願いします）

③ 税制優遇措置

個人：税額控除制度・所得控除制度のいずれかを選択等

法人：受配者指定寄付金制度等

寄附の方法

<書面（郵送）>

- ・本学HPから必要な書類をダウンロード又は本学から書類を送付します。
- ・寄附申込後、別途お振込みなどをお願い致します。

<インターネット>

- ・本学HPまたは下記QRコードからお申込みいただき、クレジットカード、コンビニエンスストア等を利用するお支払いが可能です。



顕彰について

- ① 広報誌・ホームページ等での寄附者の御芳名（個人名、法人名）
- ② 個人10万円以上（累計）、法人50万円以上（累計）寄附者御芳名（プレート）
- ③ 個人100万円以上（累計）寄附者御芳名（タイル）



プレート芳名板
（大学本館1階ロビー）



タイル芳名板
（中央棟エントランスウェイ西側）

●お申込み・お問い合わせ ご不明点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL：0561-63-1062（受付時間8：30～17：15 土日祝日を除く）✉ sikin@aichi-med-u.ac.jp

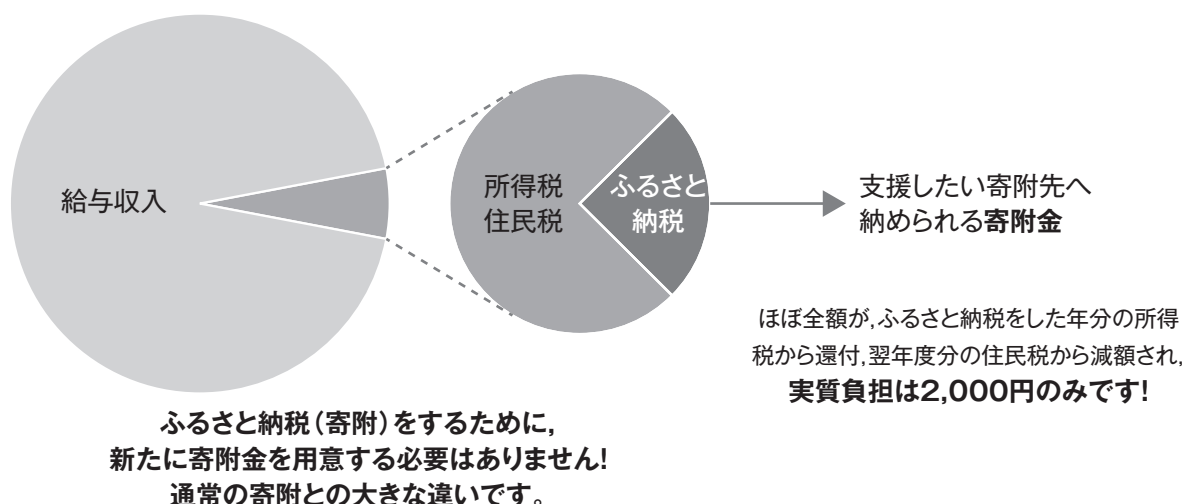
ふるさと納税（寄附）のご協力をお願い

長久手市は「ふるさと納税（寄附）制度」を活用し、市内の4大学を応援する「ながくて4U応援プロジェクト」を立ち上げ、令和6年10月25日（金）から本学への寄附を開始しました。

本学は、「いのちを救い、健康を守り、地域を支える。」地域医療を担う未来の医療人の育成を中心に、大学の教育研究活動の推進に資する事業に活用するため、本プロジェクトに参加しています。

ふるさと納税（寄附）とは？

育ててくれたふるさと、お世話になった場所を納税先を選ぶことで、支払う税金の中から寄附できる制度です。寄附金控除として、2,000円を超える部分については全額が所得税や住民税から控除されるため（上限額あり）、寄附者の実質負担は2,000円です。



ふるさと納税
(寄附)をした場合の
減税額は!

給与収入500万円の人が〔共働き・子1人(大学生)〕
ふるさと納税(寄附)の控除上限額44,000円まで寄附した場合
所得税・住民税の控除により、
42,000円減税

- ・長久手市に在住の方も寄附することが可能です。
- ・長久手市からの返礼品はありませんが、金額に応じて本学からの御礼を用意しています。

寄附方法

<書面>

- ・本学HPから寄附申込書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、メール又は郵送で本学までお申込みください。申込後、別途長久手市より納付書を送付します。

<インターネット>

- ・本学HPまたは下記QRコードから直接お申込みいただき、クレジットカード、コンビニエンスストア等を利用するお支払いが可能です。



●お申込み・お問い合わせ ご不明点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL : 0561-63-1062 (受付時間 8 : 30 ~ 17 : 15 土日祝日を除く) ✉ sikin@aichi-med-u.ac.jp

役員・評議員の異動

【理 事】

- 退 任 高柳 友子（令和7年5月31日付）
退 任 羽根田雅巳（令和7年6月30日付）
就 任 加藤 雅通（任期：令和7年6月1日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）
就 任 長谷川 洋（任期：令和7年7月1日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）

【評議員】

- 退 任 伊藤 恭彦，岩船 徹雄，笠井 謙次，加藤 宏泰，加藤 雅通，斎藤 勉，祖父江 元，
高柳 友子，道勇 学，長谷川好規，羽生田正行，羽根田雅巳，福澤 嘉孝，藤澤 恵児，
真能 秀久，山田 晴生，横尾 和久，若杉 里美，早稻田勝久
（令和7年度の定時評議員会の終結の時）
就 任 大輪 芳裕，佐藤 輔，田上 寛，中野 正吾，野場 万司，早川 俊彦
（任期：令和7年度の定時評議員会の終結の時～令和9年度の定時評議員会の終結の時）

令和7年度医学部後援会定期総会開催 新会長に加藤 雅通氏を選出



令和7年5月25日（日）
午前10時から大学本館たち
ばなホールにおいて，令和
7年度医学部後援会・医学
部互助会定期総会が開催さ
れました。

初めに，令和6年度医学部後援会・医学部互助会の事業報告及び決算報告があり，原案どおり承認されました。次に，令和7年度役員改選を行い，新会長として加藤雅通氏【写真】を始め総勢18名の新役員が選出されました。新役員を代表して加藤新会長からは，「後援会は，大学と緊密に連携しながら，

学生の皆さんの学びと生活を支える“縁の下の力持ち”として，今後も粘り強く活動して参ります。会員の皆さまにおかれましては，これまで同様，そしてこれまで以上に温かいご理解とお力添えを賜りますよう，心よりお願い申し上げます。」とのあいさつがありました。その後，令和7年度事業計画及び予算案が原案どおり承認され，総会は終了しました。

総会終了後には，笠井謙次医学部長，鈴木耕次郎教務部長，宮本淳学生部長，岩船徹雄法人本部長からあいさつがあり，レストランオレンジでの昼食を挟んで，午後1時から主に4～6学年次生の保護者を対象とした国試対策懇談会が開催されました。

令和7年度看護学部父母会定期総会開催 新会長に田上 寛氏を選出



令和7年5月17日（土）午前10時から令和7年度看護学部父母会定期総会がオンライン（Zoom）形式にて開催されました。

加藤宏泰会長のあいさつの後、令和6年度の事業報告及び決算報告がなされ、続いて役員の変更が行われました。新会長に田上寛氏（4学年次生ご父母）【写真】が選出され、その他の役員として18名の方が選出されました。その後、新役員によって議事進行がなされ、令和7年度事業計画及び予算について、原案のとおり承認さ

れました。

議事終了後、若杉里実看護学部長、泉雅之教務学生部長及び山中真看護学部長補佐から「令和7年度の看護学部の取り組み」、「看護学部の教育目標と学生の学修の実績」及び本年度新たに導入予定の「社会奉仕活動（Cross Campus）」についての報告と説明があり、併せて平素からの父母会による教育活動への協力に対する感謝の言葉が述べられ、定期総会を終了しました。

定期総会終了後には、引き続きオンライン形式による「学年別懇談会」が開催され、ご父母と各学年次主任・副主任により、学生生活や学修内容などについての様々な意見交換が行われました。

令和7年度愛知医科大学公開講座

行ってみよう！聴いてみよう！医科大学の公開講座 ～今こそ知りたい〇〇の話～

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を開催しております。今年度の公開講座は、テーマを「今こそ知りたい〇〇の話」と題し、9月13日（土）、20（土）、27日（土）の計3回にわたって開催を致します。

受講内容等は次のとおりです。

- 受講対象者 一般市民
- 募集人数 400名（申込制）
- 受講料 無料
- 会場 大学本館たちばなホール

開催日	講演時間	テーマ及び講師
9月13日（土）	14：00～14：40	10人に1人が体外受精児？少子化時代の妊娠を支える医療の話 ～卵子凍結や着床前診断など、最新の生殖医療をわかりやすく～ 産科・婦人科 教授 大須賀智子
	14：50～15：30	「強みを活かす生き方：自分らしさの再発見」 ～ポジティブ心理学を活かした「多職種連携強みカルタ」のご紹介～ 基礎看護学 教授 山本恵美子
	15：40～16：20	神経疾患治療の進歩～ALSを中心に～ 神経内科 教授 熱田 直樹
9月20日（土）	14：00～14：40	今こそ知りたい便通の話 基礎看護学 教授 篠田かおる
	14：50～15：30	しっかり受けよう、予防接種 小児科 教授 伊藤 嘉規
	15：40～16：20	誰かの「物忘れ」に気づいたら 精神神経科 准教授 深津 孝英
9月27日（土）	14：00～14：40	進歩する乳がんの診断方法 乳腺・内分泌外科 教授 藤井 公人
	14：50～15：30	胸骨を切らない低侵襲心臓弁膜症手術 ～MICS, TAVI, MitraClipを知ろう！～ 心臓外科 教授 綿貫 博隆
	15：40～16：20	いつからでも始められる骨のアンチエイジング！ 骨を若返らせる意外な食事と運動法 骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センター 教授 中村 幸男

令和7年度厚生労働省老人保健健康増進等事業に採択

本学の災害医療研究センターが応募した、「広域的長期浸水（湛水）・液状化被害による長期孤立が予測される海拔ゼロメートル地帯における災害時福祉医療連携ネットワークモデルの作成を目指した調査研究事業」が、令和6年度に引き続き、令和7年度においても厚生労働省の老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）の国庫補助協議に採択されました。

本事業の採択は今回で4年連続となっており、継続的な災害医療研究センターの活発な取り組みが評価されています。

令和7年度事業では、能登半島地震での支援経験等から、海拔ゼロメートル地帯をモデル地域とし、南海トラフ地震や大雨、津波などの激甚災害時に、

高齢者介護施設、自治体等が直ちに連携できる仕組みとして令和6年度に本学が開発した、「災害時保健医療福祉情報連携ネットワークシステム（通称：DH-Wins）」を、より実用的に改良・普及することを目的としています。

このシステムは既にアプリ化していますが、今年度の改良により、介護が必要な方々に対し、災害時に必要な物資や医療支援がより早く届くよう、また、各施設が課題を把握し見直すことで、災害への備えが強化されることが期待されています。

本事業の調査研究を通じて、本学はこれからも地域医療を支える大学として社会貢献に努めて参ります。

～愛知県委託事業～

「令和7年度介護施設等防災リーダー養成研修事業」に採択

愛知県の委託事業である介護施設等防災リーダー養成研修事業に今年度も本学が採択され、5年連続の採択となりました。

本事業は、災害医療研究センターが中心となり、高齢者介護施設等に勤務する職員を対象とした「防災リーダー養成研修」を実施し、防災リーダーの育成に貢献しています。

近年頻発している大規模地震などの激甚災害によ

り、要配慮者を預かる介護施設等の被害も甚大となっています。講義や机上演習を通して介護施設等がどのような被害を生じ、その対策として何が必要かを考えるとともに、各介護施設等が策定されているBCP（業務継続計画）がより現実味・実効性のあるものに改正する一助となるよう、施設形態別のグループディスカッションを中心とした研修を企画しています。

【開催概要】

1 開催日程（全回同内容）

開催回	日 程	対 象	会 場
第1回	11月20日（木） 13：30～16：30	西尾張地区	稲沢商工会議所
第2回	11月21日（金） 9：30～12：30		
第3回	11月21日（金） 13：30～16：30		
第4回	12月11日（木） 13：30～16：30	三河地区	蒲郡商工会議所
第5回	12月12日（金） 9：30～12：30		
第6回	12月12日（金） 13：30～16：30		
第7回	1月29日（木） 9：30～12：30	東尾張地区ほか 県内全域	日赤愛知災害管理センター棟 （日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院）
第8回	1月29日（木） 13：30～16：30		
第9回	1月30日（金） 9：30～12：30		
第10回	1月30日（金） 13：30～16：30		

2 受講料 無料

3 定 員 各回先着60名

令和7年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

令和6年度新規採用事務職員1年フォロー研修実施

令和7年5月14日（水）に大学本館711特別講義室において、令和6年度新規採用事務職員を対象として、配属後1年を一つの区切りとした1年フォロー研修が実施されました。

今回の研修は、個人及びグループワークを行った後、今年度の新入職員に向けてプレゼンテーション発表を行うという形式で行われました。個人ワークでは「自分の1年間の業務」を振り返り、グループワークでは「1年を通じて学んだことや後輩へのメッセージ」をテーマに、グループで意見を出し合いながら発表資料を作成しました。和やかな雰囲気の中にも、真剣に議論する様子が見られました。

新入職員に向けた発表では、複雑な業務について噛み砕いて説明する工夫や、自身が乗り越えた困難について率直に語られ、新入職員から「今後の業務への取り組み方の参考になった。」との感想があり



参加者による記念撮影

ました。

参加者からは、「業務の棚卸を行い、改めて自分の業務を整理することができたので、良い機会であったと感じた。」「1年前の自分より成長できていた点を認識することができ、自信に繋がった。」などの前向きな感想がありました。

全学コミュニケーション研修実施

令和7年7月17日（木）・18日（金）に大学本館たちばなホールにおいて、全教職員を対象とした全学コミュニケーション研修を実施し、教職員259名の参加がありました。

研修では、「チーム医療を支える 感情のマネジメント力」をテーマとして、チーム医療をより良くするために、「自らの考え方のクセに気づき、客観的に感情と行動をコントロールする方法」について学びました。

アンケート結果には「先輩や後輩、他職種に対して依頼や確認事項がある際、声かけを工夫することや、返答に対して落ち込むことがあっても、自分の考え方を変えていけばストレスなく働くことができると分かったため、今後活かしていきたい。」「一つのことが上手いかなくなると、今の職業が向い



研修の様子

ていない、自分はダメだ、と思うことが良くあったが、ペアワークで『それは良い意味で一つひとつ丁寧に納得のいく仕事をしたいと考えているということだね。』と言われ、そのような視点もあるのだと学ぶことができた。」との感想がありました。

【高大連携事業】総合学術情報センター図書館の利用

総合学術情報センター（図書館部門）では、愛知県立長久手高等学校と愛知医科大学との高大連携事業の一環として、令和元年度から、長久手高等学校生徒及び教員に施設を開放しています。平日は午後7時まで、土曜日は午後6時30分まで利用でき、学術資料の閲覧・複写・貸出、学習目的での閲覧席の使用、医療系データベースの検索、電子ブック・電子ジャーナルの閲覧等、サービスの範囲は本学学生とほぼ同一です。令和6年度の入館者数（延べ数）は356名あり、長久手高等学校の生徒が図書館内で学習する光景はすっかり定着しました。

令和7年5月7日（水）には、医療看護コース第2学年の生徒10名を対象に、本学職員（司書）による図書館利用ガイダンスが実施されました。館内を



資料の探し方を学ぶ高校生

巡りながら、資料の探し方や施設の利用方法など、入門的な説明が行われました。また、6月11日（水）には第2学年が、6月18日（水）には第3学年が図書館内で文献検索を行いました。引き続き、図書館を積極的に活用していただくことを期待しています。



教授就任インタビュー



地域・在宅看護学・教授

さ さ き ゆう こ
佐々木 裕子

— 教授就任に当たっての抱負を 聞かせてください。—

令和7年6月1日から、看護学部地域・在宅看護学の教授を拝命致しました。どうぞよろしくお願い致します。

看護学部の設立に関わられた故・馬場昌子名誉教授に声をかけていただき、設立3年目に着任し、地域・在宅看護学、ターミナルケア、災害看護学を中心に担当してきました。

地域・在宅看護学やターミナルケア論では、当事者の視点を重視し、地域で展開するリアルな看護実践をイメージしやすいように、自身の実践や看護師さんとの事例研究を活かし、新卒あるいは若手で訪問看護師や管理者となった卒業生、専門的实践者の協力を得て、在宅看護の魅力を伝えることに取り組んできました。

災害看護学においても、被災当事者や専門家による講義と教員の実践やシミュレーションを取り入れ、災害時に人々の命を守り社会課題に取り組める実践力を培うことができるように努めてきました。今後も実践者と協働し、看護の専門性を高めるとともに、地域社会における倫理的課題や人の人生に深く関わる看護の奥深さを、学生の皆さんとともに探求していきたいと考えています。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

看護学生時代に、「住み慣れた自宅で暮らしたい。」という希望が叶わなかった患者さんと出会い、訪問看護師を目指し、訪問看護実践と在宅ケアの仕組みづくりを実践課題とすることに方向を定めました。その後、訪問看護師さんや緩和ケア看護師さんたちと事例検討を積み重ねる機会を通して、多くの方の「生きる意味」の問いの探索や、看護師の実践の語りの研究に取り組んできました。同時に、訪問看護師時代に阪神淡路大震災の支援活動に参加して以来、現在も能登半島への支援活動に参加しています。そこで、大多数の在宅看護の対象者が、大規模災害時に配慮や支援を必要とする方々として、命を守る対策が必要だと考えたことが、現在の研究分野に進んだきっかけです。今後も在宅ケア利用者などの命を守る支援モデルづくりの実践と研究に、利用者や事業所の方、NPOの方々等とともに取り組んでいきたいと考えています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

看護学の世界は、常に進化／深化し続けています。社会のニーズも人の暮らしも多様化しています。この時代を生きるからこそ、多くの人々と、人々の多様で異なる価値観に出会い、様々な未知の出来事を体験し、挑戦し続けることを大切にしてください。そのことが、皆さんの人としての力を育み、自信と誇りをもって自らの道を歩んでいかれることに繋がると考えます。ぜひ幅広く興味関心を持ち、新たな発見に満ちた毎日を送っていただきたいと思います。

オフショット



一夜だけ力強く咲くサボテンの花
ぎゅうぎゅうに咲きました♪

令和7年度医学部解剖慰霊祭挙行

令和7年5月12日（月）、覚王山日泰寺において医学部解剖慰霊祭が厳かに執り行われ、ご遺族を始め、不老会、教職員及び医学部2学年次生など関係者約230名が出席しました。

令和6年度中に系統解剖と病理解剖へご遺体を供せられた74柱が新たに合祀され、総数5,500柱の御霊に対し、参列者一同はご冥福をお祈り致しました。

祭儀では、笠井謙次医学部長、公益財団法人不老会の久野格彦理事長が慰霊の辞を述べました。続いて、学生代表の小島優輝さんが「解剖実習で得た経験を決して忘れることなく、一つでも多くの命を救える医師となって、ご献体くださった方々の崇高なご意志に応えるために邁進して参ります。」と礼辞を奉読し、御霊に深い感謝と尊崇の念を捧げました。

焼香の段では、笠井医学部長、解剖学講座を代表して内藤宗和教授、病理学講座を代表して中村律子



覚王山日泰寺での解剖慰霊祭の様子

講師、学生を代表して丹羽紗彩さんが順番に哀悼の意を表し、続いて参列者一人ひとりが霊前にて焼香を行いました。

最後に、笠井医学部長から参加者に対して謝辞が述べられ、式は滞りなく終了し、参列者は学生が見送る中で帰路につかれました。

愛知医科大学不老会会員の集い開催

令和7年5月12日（月）午前10時30分から、愛知医科大学不老会会員の集いが覚王山日泰寺普門閣において開催されました。当日は晴天に恵まれ、不老会役員、本学部会役員、一般会員及び医学部2学年次生から142名が出席し、会場内は多くの参加者で盛況となりました。

会員の集いは、成願された方々への黙とうで始まり、笠井謙次医学部長、公益財団法人不老会の久野格彦理事長からごあいさつをいただきました。

続いて、学生代表の田中さやさんから、「解剖学実習という貴重な経験を通じて、一人ひとりの考え方や背景を理解し、患者さんにとって最善の医療を行うことのできる医師になるよう、精一杯努めて参ります。」と感謝の想いを込めた体験発表がありました。

次に、講演発表として、泌尿器科学講座の佐々直人教授から「夜トイレに起きる理由とその対策－夜間頻尿と夜間多尿の違い－」と題した講演があり、解剖学講座の内藤宗和教授から献体の現状について



会場の様子

の報告が行われました。それぞれの質疑応答の時間には、参加者の方々から積極的に手が挙がり、活発な意見交換が行われました。

また、不老会会員と学生との昼食懇談会も実施され、「学生と直接話せて良かった。」と会員の方にも喜んでいただくなど、有意義な交流の時間となりました。懇談会終了後、学生と教職員が見送る中、参加された会員の方々は、次回開催の期待を胸に帰路につかれました。

国家試験日程のお知らせ

◆第120回医師国家試験

- ・試験日 令和8年2月7日(土)・8日(日)
- ・合格発表 令和8年3月16日(月)

◆第112回保健師国家試験

- ・試験日 令和8年2月13日(金)
- ・合格発表 令和8年3月24日(火)

◆第115回看護師国家試験

- ・試験日 令和8年2月15日(日)
- ・合格発表 令和8年3月24日(火)

令和7年度医学部FD開催

令和7年4月18日(金)午後5時30分から大学本館711特別講義室において、「生成AIと医学教育について」と「教授法の共有」をテーマとする令和7年度第1回医学部FDが開催されました。「生成AIと医学教育」では、愛媛大学の小林直人教授を講師にお招きし、AI活用の課題や教育現場での工夫について討議が行われました。「教授法の共有」では、昨年度ベストティーチャー賞に選出された感染・免疫学講座の森田奈央子助教から、オリジナルスライドを活用した授業の一例を通して、学生の理解を深める工夫が紹介されました。

第2回は5月8日(木)午後5時30分から同講義室において、令和8年10月に予定されている

JACME 2 巡目受審に向けた医学教育分野別評価の年次報告書作成に関するFDが開催され、領域ごとに進捗確認を行い、課題を共有しました。

第3回は6月10日(火)午後5時30分から大学本館301講義室において、MEC予備校の塩澤昌英先生による「第119回医師国家試験の出題傾向と客観的問題の作成方法について」の講演が開催されました。国家試験の動向に加え、本学の国家試験対策や卒業試験のあり方についても意見交換をしました。続いて、感染・免疫学講座の高村祥子教授と救急集中治療医学講座の渡邊栄三教授から、「指導講座制度」について実際の活動内容の提示があり、学生支援の様子が共有されました。

令和7年度臨床実習後OSCE実施

令和7年7月12日(土)に医学部6学年次生を対象として、臨床実習後OSCEが実施されました。この試験は、医学生が診療参加型臨床実習において十分な臨床能力を修得できているか、つまり臨床研修を開始して良いかどうかを評価する試験です。

本試験では、共用試験実施評価機構の課題(機構課題)3題と各大学独自の課題3題が出題されました。機構課題は、1課題16分間(医療面接と身体診察:12分間、情報整理と指導医への報告:4分間)という限られた時間の中で、医療面接と身体診察を行い、

鑑別疾患を思い浮かべて、指導医へ報告するという形式です。機構課題に対しては学生も十分に対策をしてきており、多くの学生が対応できていましたが、大学独自課題においては、対応に苦慮している学生が散見されました。

今回の臨床実習後OSCEの結果を各診療科で共有し、今後の臨床実習の充実に活かしていただけたことと思います。また、模擬患者さんを始め、多くの職員の方々に運営スタッフとして携わっていただきました。改めて皆さまのご協力に感謝致します。

熱中症予防講演会開催

令和7年6月30日（月）午後5時40分から、大学本館たちばなホールにおいて、課外活動を行う医学部及び看護学部 of 学生を対象として「熱中症予防講演会」が開催され、両学部生合わせて397名の参加がありました。【写真】

本講演会は、6月中旬から全国的に厳しい暑さが到来し、真夏日・猛暑日が各地で記録されている状況で、8月上旬から開催される西日本医科学生総合体育大会に向け練習量が多くなることや、夏季休業期間中の練習時間帯が夜から日中に移行するなど、7月から8月にかけては熱中症に注意する必要があることから、熱中症予防の重要性について再認識してもらうことを目的に開催されています。

講演会では、救命救急科の寺島嗣明講師から、①熱中症は死に直結するため、暑熱順化で備えること、②早期認識・早期治療で重症化を防ぐことの重要性、③「熱中症診療ガイドライン2024」において深部体温の測定による評価と治療が明確化されたことなど、



最新の情報について講演していただきました。

講演会終了後に確認テストを実施し、参加した学生からは、「実際の処置などを知ることができたので興味深かった。」、「タンパク質の変性のこと、実際の症例のお話など、熱中症に対する意識の向上に繋がったと思う。」、「部長として誰一人熱中症を出さないように体温計やアイススララーを準備しようと思う。」などの感想がありました。

令和7年度医学部成績優秀者表彰

医学部では、成績上位で出席状況及び勉学態度等が他の規範となる各学年5名の学生に対し、本人の学習意欲の高揚を図るために顕彰制度を設け表彰しています。

今年度の表彰式は、令和7年5月27日（火）午後6時から大学本館711特別講義室において、令和6年度の成績が優秀であった医学部2～6学年次生の学生計25名を対象に行われました。受賞者に対して祖父江元 学長から表彰状及び記念品が授与されるとともに、一人ひとりに称揚と更なる期待の言葉をかけられました。

また、6月12日（木）午後5時30分から大学本館副学長室において、5月の欠席者5名に対する表彰が行われ、笠井謙次医学部長から表彰状及び記念品が授与されました。

表彰式終了後には、成績優秀者全員で記念写真を撮影し、和やかな雰囲気の中で撮影が行われました。学生同士で写真撮影する光景もみられ、喜びを分かち合っていました。



5月27日表彰後の記念撮影



6月12日表彰後の記念撮影

医学部学生表彰(学会)

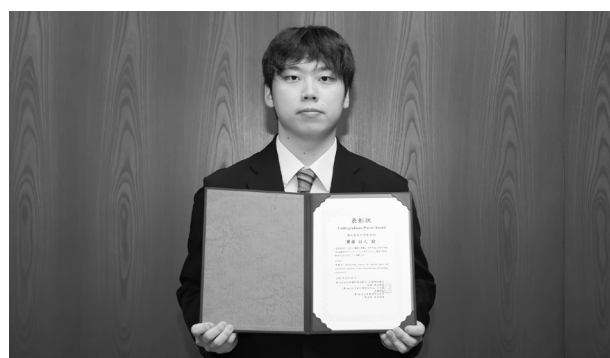
令和7年6月23日(月)午後6時30分から、大学本館役員会議室2において、他の模範となる活躍をした学生の表彰が行われ、医学部4学年次生の齋藤壮人さんと5学年次生の梶浦大輝さんに対し、祖父江元学長から表彰状と記念品が贈呈されました。

齋藤さんは、令和7年3月17日(月)から19日(水)に開催された「第130回日本解剖学会総会・全国学術集会・第102回日本生理学会大会・第98回日本薬理学会年会合同大会」において、筆頭演者として「Undergraduate Poster Award」を受賞しました。梶浦さんは、同大会において共同発表者を務めました。

今回のように表彰される学生が今後も続くことを期待します。



前列左2番目から梶浦さん、齋藤さん



「Undergraduate Poster Award」の
賞状を持つ齋藤さん

大学院医学研究科学生表彰(優秀論文賞)



大学院医学研究科では、学生の研究活動の活性化を図るため、学生が顕著な業績を挙げた場合等の表彰制度を設けています。

この度、令和6年度に修了した大学院生から選考し、内科学講座(血液内科)の高見昭良教授から推薦されたVU QUANG LAM氏(臨床医学系内科学専攻)【写真】が「優秀論文賞」として表彰されることとなりました。

LAM氏は、真理の探究に対する強い意欲、柔軟

な発想力と優れた問題解決能力を備え、誠実な人柄により周囲から厚い信頼を得ている極めて優秀な研究者です。

今回の研究は、再生不良性貧血患者の骨髄におけるMAIT細胞の意義を初めて明らかにし、評価の高い英文雑誌(International Journal of Molecular Sciences)に掲載されました。更に、NKG2D陽性MAIT細胞が同疾患における新たな治療標的となる可能性を見出しており、今後の研究の発展が大いに期待されます。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。

令和7年度看護学部キャンドルセレモニー挙行

令和7年6月14日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて、看護学部2学年次生を対象に、本学関係者及び保護者を招待し、令和7年度看護学部キャンドルセレモニーが挙行されました。

本学のキャンドルセレモニーは、ナイチンゲールの精神を受け継ぎ、看護職者となるための決意を新たにする誓いの場として、2学年次生の実行委員会を中心となって企画し、学生たちが協力して運営しているものです。

始めに、祖父江元 学長から式辞が述べられ、続いて、若杉里実看護学部長、井上里恵看護部長からメッセージが贈られました。その後、学生代表18名がナイチンゲール像の灯火を燭台に受け継ぎ、「私の目指す看護師像」を発表した後、一斉に全ての学生へ灯火を引き継ぎました。最後に、学生代表2名が壇上に上がり、「誓いの言葉」を述べ、厳粛な雰囲気の中、キャンドルセレモニーを終了しました。

この式典を通じて、これから本格的に始まる看護学の修得に一層力を注ぎ、高度な知識・技術を兼ね



式辞を述べる祖父江学長



キャンドルセレモニーの様子

備えた心豊かな看護職者へと成長していくことを心から願っています。

シンガポール共和国シンガポール国立大学短期留学生来学

令和7年7月14日（月）からシンガポール国立大学（NUS）の看護学生6名を迎え、1週間の受け入れプログラムを実施しました。看護学部ではこれまでタイ王国マハサラカム大学の学生を受け入れており、今回は2校目の受け入れとなります。

今回のプログラムでは、本院及びあいち小児保健医療総合センターに加え、日本初の介助犬訓練施設「シンシアの丘」における訓練の視察や、名古屋大学減災館において災害から命を守るための取り組みを見学しました。

NUSの学生たちは各訪問先で積極的に質問しており、日本とシンガポールにおける医療制度及び文化の違いを肌で感じていました。学生からは、「日本では患者中心の医療が進んでいる。」との感想がありました。



ドクターヘリ前での記念撮影

また、学内ではウェルカムランチやエクスカーシオンを通じて本学学生との交流を深めるとともに、学部及び大学院診療看護師コースの演習に参加し、国を越えて看護学生同士がディスカッションを行う貴重な機会となりました。

令和7年度高校教員対象看護学部説明会開催

令和7年7月24日（木）午後2時から看護学部棟N302講義室において、高校教員対象看護学部説明会が開催されました。本説明会は、高校教員に対して看護学部の教育内容や入試制度に関する最新情報を提供し、理解を深めていただくことを目的としています。当日は県内外の高等学校から3年生担任や進路指導担当者の参加がありました。

始めに、広報委員会委員長の山中真教授（看護管理学）のあいさつがあり、続いて看護学部の概要及び入試概要の説明が行われました。

質疑応答の後、地域・在宅看護学の白井裕子准教授による施設見学が行われ、実習室やシミュレーションセンターなどの教育環境を確認しました。また、希望者には個別相談の時間も設け、各高等学校の進路指導に役立つ情報交換が行われました。

参加者からは、「具体的で分かりやすい説明で、進路指導に役立つ情報が得られた。」などの声が寄せられ、本学部と地域の高等学校との連携の強化及



入学試験概要説明の様子



実習室の説明をする白井准教授

び受験生の本学への関心を高めるきっかけとなりました。

看護学研究科特別講義開催

令和7年6月14日（土）、7月18日（金）及び23日（水）に看護学研究科特別講義が開催されました。聖路加国際大学大学院看護学研究科の奥山絢子教授を講師にお招きし、博士後期課程DNPコースで取り組むプロジェクト研究について、3回に分けて学びました。

アメリカでのDNP（DNP：Doctor of Nursing Practice）教育の現状及び学習アウトカムに始まり、日本で行われているDNPプロジェクト研究の方法

論や、実装研究の手法を活用した質改善の例まで幅広く学ぶことができました。

看護学研究科では、本年度から博士後期課程が開設され、西日本で初めてDNPコースを設けています。講義には、DNPコースの大学院生を始め、今後博士後期課程の入学も視野に入れた修士課程の大学院生など多くの方にご参加いただき、活発な質疑応答が行われ、ディスカッションにより更に学びが深まる有意義な機会となりました。

ヘルスケア共創センター生涯学修支援部門 看護研究支援セミナー開催

【第1回】基礎編：実践のもやもやを研究につなげる！

令和7年6月21日（土）午前10時から、看護学研究科の茂本咲子教授（小児看護学）による看護研究支援セミナー基礎編「実践のもやもやを研究につなげる！」がオンライン形式で開催され【写真】、県内外から40名の参加がありました。

基礎編では、研究課題の明確化は、実践で疑問に思ったことや気づいたことを疑問形で書き出し、第三者にも分かるように客観的に言語化することで始められることや、文献検索の方法と文献の読み方、研究倫理についてのお話がありました。参加者からは、「看護研究の入り口として丁寧で分かりやすかった。」「文献検索の仕方が詳しく分かりやすかった。」等の感想がありました。

講義終了後、昨年度好評だった「放課後タイム」



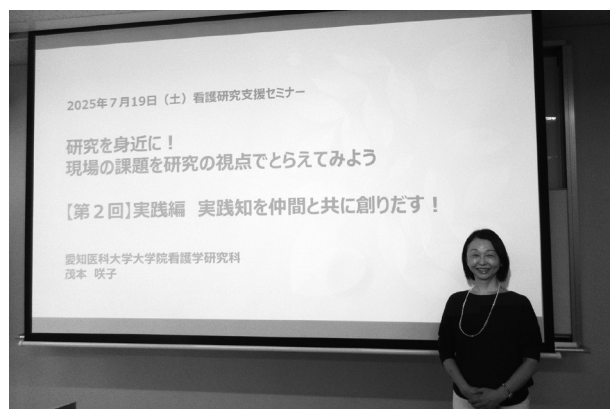
を開催し、参加者が講師に個別のテーマについて質問できる時間が設けられました。参加者からは、「個人的な質問に対応してもらえて良かった。」「他施設の方の意見を聞く機会があり良かった。」等の感想がありました。

【第2回】実践編：実践知を仲間と共に創りだす！

令和7年7月19日（土）午前10時から、看護学研究科の茂本咲子教授（小児看護学）による看護研究支援セミナー実践編「実践知を仲間と共に創りだす！」がオンライン形式で開催され【写真】、県内外から33名の参加がありました。

実践編では、インタビュー及びアンケート調査を用いる研究方法やその分析のコツに加え、研究成果の公表方法についてのお話がありました。また、臨床看護師と大学教員がチームで取り組んだ研究実践例もご紹介いただき、参加者からは「研究の具体的な進め方やデータ分析の方法が分かりやすかった。」「実践例の報告を聞いて、研究のイメージが湧いた。」等の感想がありました。

基礎編に続き「放課後タイム」を開催し、参加者



からは、「質問内容とその返答が学びになった。」等の感想が寄せられ、有意義な交流となりました。

2日間にわたるセミナーを通して、看護研究の始め方から進め方まで、実践的な学びを深めることができました。

ヘルスケア共創センター地域連携部門 北小学校区まちづくり協議会 健康講座「長生きの秘訣は食にあり！」 参画

令和7年5月31日（土）に長久手市北小学校区共生ステーションにおいて、北小学校区まちづくり協議会ささえあい交流部会主催の健康講座「長生きの秘訣は食にあり！」が開催され、ヘルスケア共創センター地域連携部門の教員とボランティア学生が参加しました。同協議会は昨年9月に発足し、今回の企画は本部門の活動に関心を示してくださった住民の方からのお声掛けにより実現しました。

当日は、北小学校区や近隣の住民の方々28名（スタッフを含め計43名）の参加がありました。本部門員による「バランスのよい食事」の講義では、日頃の食生活を振り返り、健康な身体づくりに向けた食事バランス及び食べすぎを防ぐための手ばかり法が紹介されました。また、グループワークは、献立カードを用いて1日分の食事を考えてみるという内容で、活発なディスカッションが行われました。参加者同



献立を考えるグループワーク

士で食べたい献立及び食材のバランスなどを考えながら、楽しく健康な食事について学び合うことができました。

地域連携部門では、今後も地域の方々との情報共有をもとにニーズに即した健康支援活動に取り組んで参ります。



病院長就任所信表明

令和7年5月15日（木）午後4時30分から、大学本館たちばなホールにおいて、天野哲也病院長による所信表明が開催されました。

多くの教職員が出席し、天野病院長から本院の現状が説明され、課題解決策として、「経営の持続性」と「社会的責務」を両立させるためのイノベーションの実現が必須であるとし、その戦略に「意識改革」と「構造改革」が挙げられました。

具体的には、財政基盤の見直し及び循環型地域医療の重要性、各診療科が明確な目標を持ち、その達成に向けての取り組みを強化することで、部分最適から全体最適へ移行し、病院全体の発展に繋がると述べられました。

また、副院長には、これらの取り組みを支える重要な役割があるとし、それぞれの職務を明確に規定



天野病院長による所信表明

した円滑な管理体制としたことも述べられました。

最後に、教職員に対し「更なる成長を遂げるためには、多くの努力が必要です。目的を一つに持ち、教職員一丸となって、この難局を乗り越えましょう。」と締めくくられました。

大学病院の中央診療部に新たな部門設置

肺胞蛋白症センター

令和7年5月1日（木）付けで、「肺胞蛋白症センター」が新設されました。肺胞蛋白症は、肺胞内にサーファクタントが過剰に蓄積される希少疾患であり、厚生労働省の指定難病の一つです。令和元年に実施された国内の疫学調査によると、人口100万人当たり26.6人の有病率が報告されています。

本院は、山口悦郎名誉教授による呼吸器・アレルギー内科開設以来、世界有数の専門施設として、長年にわたり肺胞蛋白症の診療に取り組んで参りました。

間質性肺疾患センター

令和7年5月1日（木）付けで、「間質性肺疾患センター」が新設されました。間質性肺炎を始めとする間質性肺疾患は、診断と治療が難しい呼吸器疾患であり、進行すると生命予後に大きく関わることで知られています。

本センターでは、呼吸器・アレルギー内科を中心に、複数の診療科が連携した多分野集学的検討（MDD）に基づき、精緻な診断と一人ひとりに応じ

肺胞蛋白症センター 部長 伊藤 理

た。更に、麻酔科の協力の下、全身麻酔下での全肺洗浄にも積極的に対応しています。

令和6年5月には、GM-CSF製剤サルグラモスチムの吸入療法が、世界初の自己免疫性肺胞蛋白症治療薬として薬事承認されました。これは、重症患者さんが待ち望んできた治療法であり、本院でも既に治療実績を積み重ねています。

今後も近隣医療機関との連携を深め、地域全体の肺胞蛋白症診療の質の向上に努めて参ります。

間質性肺疾患センター 部長 近藤 康博

た個別化医療を実践します。更に、抗線維化薬や免疫抑制薬といった最新治療に対応するほか、間質性肺疾患に合併しやすい肺高血圧症に対しては、循環器内科と連携して専門的に管理しています。

また、地域医療連携や患者さんの自己管理支援にも力を入れ、患者さんが「自分らしく人生を歩める」診療体制の構築を目指しています。今後も地域医療の質的向上と専門診療の発展に貢献して参ります。

古本愛知県副知事による医療コンテナ（CoMU[®]）視察

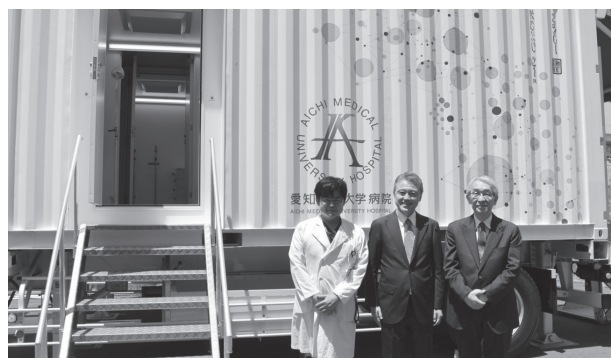
令和7年5月28日（水）午前10時から、愛知県の古本伸一郎副知事が、本院に設置されている可搬式コンテナ医療ユニット（CoMU[®]）の視察に来学されました。

視察当日は、救急集中治療医学講座の渡邊栄三教授から災害医療におけるコンテナ医療ユニット（CoMU[®]）の有用性について説明があり、祖父江元理事長及び古本副知事、愛知県医務課関係者の皆さんが、今後の展望について活発に意見交換を行いました。

渡邊教授からは、令和6年能登半島地震の際の派遣事例に加えて、ラリージャパンや名古屋ウィメンズマラソン等の大規模イベントでの出動実績についても紹介がありました。



CoMU[®]内での視察の様子



左から渡邊教授、古本副知事、祖父江理事長

令和7年度第1回看護師特定行為研修指導者講習会実施

本院看護部特定行為研修センターでは、厚生労働省の「看護師の特定行為に係る指導者等育成事業」として、令和7年度指導者講習会を2回実施する予定です。

令和7年7月13日（日）午前9時からアメニティ棟3階会議室において、第1回看護師特定行為研修指導者講習会が実施されました。本講習会は、特定行為研修制度の趣旨及び内容等について、指定研修機関及び協力施設における指導者の理解を促進し、効果的に指導を行うことができる指導者を養成することで、特定行為研修の質の担保を図ることを目的としています。

今回は、多くの施設から医師、看護師など多職種29名の参加があり、特定行為研修の概要、能力評価



グループワークを行う様子

方法及びフィードバックの方法などについて学びました。施設による体制の違い、多職種協働の実態を知ることができ、これからの特定行為研修指導に活かすとともに、特定行為研修修了者の活動支援についても考える機会となりました。

初めての試み！新人看護師搬送研修実施

本院では、急性期における高度リハビリテーションの実施に取り組んでおり、実施に当たりALL愛知医大で患者さんの搬送について検討を行っています。また、新人看護師は厚生労働省のガイドラインに沿った技術教育プログラムを実施しています。今年度は4月～9月にかけて搬送研修を企画しました。

研修では、①歩行困難または歩行が許可されていない場合に、目的の場所へ安全・安楽に移送する、②医療者間のコミュニケーション、報告・連絡・相談ができる、③病院内の他部門の配置・連携を理解し協働できることを目的に、1人当たり3日間各病棟と3階リハビリ室間の搬送が行われました。患者さんを始め、各病棟の看護責任者、リーダー看護師、愛Mate（日中看護補助者）及びセラピスト等とコミュニケーションを取りながら、安全に搬送を行う



搬送研修の様子

ことができました。

新人看護師からは、「病院の構造が理解できた。」「搬送時に患者さんとゆっくりと話をすることができた。」等の意見が聞かれ、達成度、満足度ともに高い研修となりました。

愛Crewスタートから4周年を迎えて

本院では、令和3年7月から、夜間の看護業務の負担軽減を目的に、学生のアルバイトを活用した看護補助者事業として「愛Crew」が導入されました。導入当初はコロナ禍の最中であり、患者さんに接する直接ケアは実施せず、周辺業務からのスタートでした。現在では、患者さんへの直接ケアを行いながら看護チームの一員として活躍しています。

業務拡大に向けて年に一回集合研修が行われ、患者搬送、看護職員とペアを組んでの体位変換及びオムツ交換など、多くの直接ケアが実施されています。また、令和6年度から、夜間だけではなく愛Mate（日中看護補助者）が不在となる日曜・祝日の日勤勤務が導入されました。

看護職員からは「愛Crewがいてとても助かって

いる。」との声が多く聞かれています。そして、愛Crewからは、「患者さんとのコミュニケーションや看護技術など多くのことを学べる。」との声が聞かれています。看護職員と愛Crewが協働することは、看護業務の負担軽減だけではなく、将来医療者として働く愛Crewの学びの場にもなっています。そして、何より愛Crewの若いパワーと笑顔は患者さんへ沢山の「元気」を与え、看護サービスの質向上にも繋がっています。

導入から5年目を迎え、愛Crewは看護チームになくてはならない存在に成長しています。今後も、愛知医科大学病院の仲間（クルー）として共に協働し、患者さんへより良い看護を提供していきます。

メディカルセンター第1回Basic Life Support研修実施

令和7年6月16日（月）から20日（金）までの5日間にわたり、メディカルセンター Basic Life Support（一次救命処置）研修が実施されました。本研修は、救急の基礎知識と緊急時の初期対応を学ぶことを目的とし、看護師やリハビリスタッフを始めとした医療職だけではなく、非医療従事者を含めた全職員を対象に実施され、266名の職員が参加しました。

メディカルセンタースタッフの救急看護認定看護師がインストラクターとなり、心肺蘇生法及びAEDの使用方法など、実践的なスキルを中心とした指導が行われました。受講者からは、「実技を通して理解が深まった。」、「いざというときに備えて、繰り返し研修を受講したい。」等の声が寄せられ、大変有意義な研修となりました。

今後もメディカルセンターでは、職員一人ひとりが医療人としての自覚と対応力を高められるよう、継続的な教育機会の充実を図って参ります。



研修の様子

メディカルセンター 岩津学区老人クラブ連合会高齢者教室出前講座開催

令和7年7月4日（金）岡崎市岩津学区市民ホームにおいて、岩津学区老人クラブ連合会高齢者教室の出前講座が開催されました。本講座では、「折れやすいのは骨のせい？～笑えない話でも笑って聞いて！～」と題し、メディカルセンター医療技術部NP室の津下和貴子看護師（診療看護師）が、加齢に伴う骨粗鬆症のリスク及び転倒・骨折を予防するための日常生活の工夫について、ユーモアを交えながら分かりやすく解説しました。

当日は54名の参加があり、参加者からは「ヒトの骨の仕組みについて楽しく学べた。」、「骨粗鬆症予防のために食生活を気を付けてみようと思う。」といった声が寄せられ、講座は大変好評を博しました。

メディカルセンターでは、地域貢献の一環として医療職による出前講座を継続的に実施しています。今後も市民公開講座や出前講座を積極的に実施し、健康づくりの支援と地域との連携強化を図って参ります。



講演する津下看護師



出前講座の様子

メディカルセンター令和7年度岡崎市病診連携懇談会開催

令和7年7月23日（水）午後7時から、岡崎ニューグランドホテルにおいて、令和7年度岡崎市病診連携懇談会が開催されました。本会は岡崎市医師会員の先生方と岡崎市内3基幹病院（岡崎市民病院、藤田医科大学岡崎医療センター、愛知医科大学メディカルセンター）の医師及び地域医療連携に係るスタッフが意見交換や親睦を図ることを目的とし、年に一度開催されている懇談会です。

今年度は、メディカルセンター開院後としては初の幹事年に当たり、3年に一度の当番として運営を担当しました。前半は3基幹病院の病院長による講演が行われ、病院の実績報告及び地域医療連携の取り組み事例を共有しました。後半は懇親の場が設けられ、顔の見える関係づくりが図られました。

今後もこのような交流を通じて、地域全体で切れ目のない医療を提供できるよう努めて参ります。



羽生田正行メディカルセンター病院長による乾杯のあいさつ



懇談会の様子

眼科クリニックMiRAI みるパーク「近視ってなあに？」特別講演・検査体験会実施

令和7年5月18日（日）午後2時から長久手市中央図書館において、株式会社メニコン主催の視力の健康啓発イベント「みるパーク」が開催され、近視進行抑制寄附講座及び眼科クリニックMiRAIは、協力機関として特別講演及び検査体験会を実施しました。

前半の特別講演では、近視進行抑制寄附講座の柴田藍助教から、「近視ってなあに？～ずっと健康な眼でいるために今できること～」と題して、近年深刻化する子どもの近視進行について、屋外活動及び生活習慣の重要性が分かりやすく解説されました。後半の検査体験会では、視能訓練士が視力や屈折の測定を行い、来場者が実際に検査機器に触れながら視覚の仕組みを学びました。

参加した親子からは、「今すぐできる目のケアが学べた」との声が多く聞かれ、地域における視力の健康啓発の貴重な機会となりました。



特別講演の様子



検査体験会の様子

福澤 嘉孝名誉教授 一般社団法人日本医学教育学会特別会員に推戴

福澤嘉孝名誉教授【写真】が、令和7年7月25日（金）に秋田にぎわい交流館AUで開催された一般社団法人日本医学教育学会（JSME）2025年度定時社員総会（代議員会）の名誉会員・特別会員推戴式において、同会の特別会員に推戴されました。

同会は医学教育の普及と正しい理解を深めることを目指しており、特別会員への推戴は、福澤名誉教授が長年にわたり同会の発展に貢献したことが大変評価されたもので、全国会員約3,000名から12名が推薦されました。

推戴を受けた福澤名誉教授からは、「この度、歴史あるJSME（日本最大の医学教育の学会）の特別会員へ推戴いただき、大変光栄に思っております。これも一重に、長年にわたる皆さまからのご支援・ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。このような素晴らしい推戴状を授与されたことは過分な榮譽



と感じており、今後も決して驕ることなく、一層謙虚な気持ちで、医学教育の普及と発展に貢献していく所存です。本学、本院、社会及び医療の現場において、微力ながらも誠心誠意尽力し、少しでも学生・教育関係者各位の医学教育に役立つ存在となれるよう努力を重ねて参ります。皆さまの引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。」との感想がありました。

福澤 嘉孝名誉教授・川上 智史客員研究員 一般社団法人日本先制臨床医学会最優秀研究論文賞受賞

福澤嘉孝名誉教授及び尚絅学院大学健康栄養学群健康栄養学類の川上智史准教授（本学客員研究員）が、令和7年7月25日（金）の一般社団法人日本先制臨床医学会（JSPCM）理事会・監事会において、最優秀研究論文賞【写真】を受賞しました。

この賞は、学術誌「Journal of Respiration (J. Respir)」に掲載された福澤名誉教授、川上准教授らによる研究原著論文「Development of a New Treatment for Lung Diseases, Mainly Interstitial Pneumonia, Using Platinum-Palladium: A Pilot Study」において、白金-パラジウムが、間質性肺炎に対して著効を呈したことを新たに科学的根拠（in vitro + in vivo）に基づいて初めて証明し、将来的には間質性肺炎やCOPDに対する新たな治療戦略の扉を開く可能性を十分に秘めていることが今後の先制臨床医学の飛躍・進展に寄与するものとして高評価されたものです。

論文共同著者である福澤名誉教授からは、「この度、私達の共同研究が、J.Respir (MDPI: H-index = 2.3) への掲載に加え、JSPCMからの『最優



秀研究論文賞』受賞という榮譽に預かり、心より感動しております。間質性肺炎の治療法に関する研究者が非常に多い中、間質性肺炎に関してここまで精緻かつ包括的に研究された報告は殆ど見当たらず大変有意義な報告です。多くのご支援とご指導に深く感謝申し上げます。今後も謙虚な姿勢を忘れず、臨床医学発展と社会・医療貢献を目指して邁進して参ります。」との感想がありました。

産婦人科学講座 大須賀 智子教授 第16回ロート女性健康科学研究賞受賞

産婦人科学講座の大須賀智子教授が、令和7年5月24日（土）に岡山県医師会館三木記念ホールで開催された第77回日本産科婦人科学会学術講演会において、第16回ロート女性健康科学研究賞を受賞しました。

この賞は、日本の大学及びそれに準じる研究機関の産科婦人科研究に関する顕著な功績のあった研究者を対象に贈られる賞で、大須賀教授の発表演題「POI早期診断からART成績向上に資するトランスレーショナルリサーチへの展開」が、早発卵巣不全研究やART診療の向上・発展に大きく寄与するものとして評価されたものです。

受賞した大須賀教授からは、「この度は名誉ある



大須賀教授（中央）

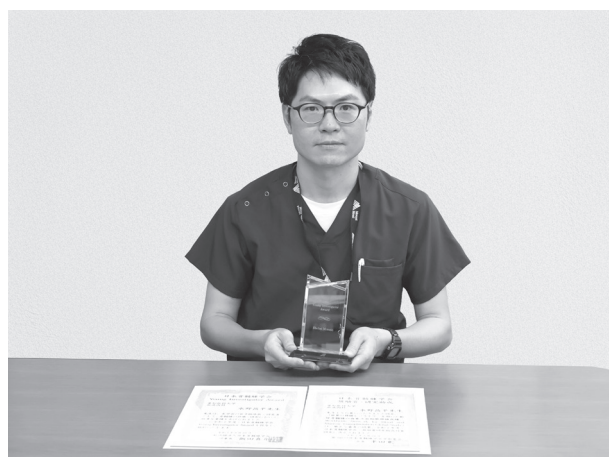
賞をいただき、大変光栄に存じます。これも皆さま方のご協力及びご指導のおかげと感謝しております。今後もなお一層精進していく所存でございます。」との感想がありました。

内科学講座（血液内科） 水野 昌平准教授 第50回日本骨髓腫学会学術集会 2025年度Young Investigator Award 及び奨励賞受賞

内科学講座（血液内科）の水野昌平准教授【写真】が、令和7年5月24日（土）にGメッセ群馬で開催された第50回日本骨髓腫学会学術集会において、2025年度Young Investigator Award（YIA）及び2025年度奨励賞を受賞しました。

YIA及び奨励賞は、基礎研究、臨床研究及び診療にて顕著な実績をあげた若手医師・研究者を顕彰するもので、水野准教授の研究「世界の移植レジストリーを用いた新規骨髓腫の自家造血細胞移植成績；Worldwide Network for Blood and Marrow Transplantation Global Study」が、今後の骨髓腫分野の発展に大きく寄与するものとして評価されたものです。

受賞した水野准教授からは、「このたび、日本骨髓腫学会よりYoung Investigator Award及び奨励



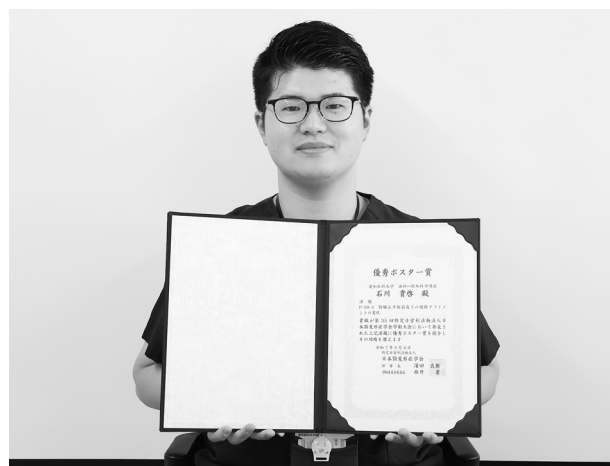
賞を賜り、身に余る光栄に存じます。内科学講座（血液内科）の高見昭良教授、花村一郎教授（特任）を始め、ご指導・ご支援を賜っております多くの先生方に深く感謝申し上げます。今後も臨床及び研究を通じて本学に貢献できるよう、精進して参ります。」との感想がありました。

歯科口腔外科 石川 貴啓 助教（専修医） 第35回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会 優秀ポスター賞受賞

歯科口腔外科の石川貴啓助教（専修医）【写真】が、令和7年6月5日（木）・6日（金）に福岡県の北九州国際会議場で開催された第35回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会において、優秀ポスター賞を受賞しました。

この賞は、石川助教（専修医）のポスター発表「顎矯正手術前後での頸椎アライメントの変化」が評価されたものです。

受賞した石川助教（専修医）からは、「この度は、名誉ある『優秀ポスター賞』を頂き、大変光栄に存じます。これも一重に多くの先生方のご指導とご協力のお陰と深く感謝しております。今後もなお一層



精進していく所存でございます。ご指導を宜しくお願い致します。」との感想がありました。

看護部 井上 里恵看護部長 令和7年度日本看護協会会長表彰受賞

看護部の井上里恵看護部長【写真】が、日本看護協会会長表彰を受賞しました。

これは、看護協会活動において顕著な功績のあった者に授与される賞であり、令和7年6月11日（水）千葉幕張メッセにおいて開催された、令和7年度日本看護協会通常総会の席上で表彰式が行われました。

表彰を受けた井上看護部長からは、「この度は名誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。過去4年間、看護師I職能理事として看護師の特定行為研修の実態調査からの提言、看護業務負担軽減のための看護補助者の活用および多職種とのタスク・シフト／シェアについての実態調査からの提言、そして学



会報告を通して日本全体に推進活動をしてきたことが認められたと思います。」との言葉がありました。

医療安全管理室 小林 千尋副室長 愛知県看護功労者表彰受賞

医療安全管理室の小林千尋副室長【写真】が愛知県看護功労者表彰を受賞しました。

これは、看護職員として長年業務に従事し、顕著な功績のあった者に授与される賞であり、令和7年5月14日（水）愛知県産業労働センター（ウインクあいち）において開催された令和7年度愛知県看護大会の席上で表彰式が行われました。

表彰を受けた小林副室長からは、「この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。看護職として40年にわたり業務し、その間、多くは手術室を主とする周術期分野で臨床を経験し、その後は管理的責務を果たして参りました。これまたたくさんの諸先輩や、一緒に働いた方々の支え・ご指導の賜物と深く感謝しております。今回の受賞では、長年の臨



床経験を活かし、医療安全管理室専従の看護副部長として看護の質向上に貢献したことが評価されました。これからもご指導・ご鞭撻を賜りながら、医療安全管理者として活動していきたいと思っております。」との感想がありました。

優良自動車運転者表彰

模範的な運転を行い、交通の安全確保に貢献している方に対し、愛知警察署、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から毎年「優良自動車運転者表彰」が行われています。

今年は、令和7年6月5日（木）に医学部事務部の近藤朋志部長【写真】が表彰を受けました。この表彰は、学生を指導する立場として自ら安全運転を心掛け、長年無事故・無違反を続けていることが評価されたものです。

近藤部長からは、「自動車の運転は私の生活に欠かせないものになっていますので、これからは無事



故・無違反が当たり前の日常が続くよう安全運転を心掛けます。」との感想がありました。

学 術 振 興

研究助成等採択者

◇一般社団法人日本ALS協会

「ALS基金」研究奨励金

・氏 名 藤内玄規(ALS治療研究開発部門・
助教)

研究題目 ゲノム情報を基盤としたALSの治
療薬探索と患者iPS細胞由来運動
ニューロンを用いた検証

助成金額 3,000,000円

◇一般社団法人日本骨髓腫学会

2025年度日本骨髓腫学会奨励賞

・氏 名 水野昌平(内科学講座(血液内科)・
准教授)

研究題目 世界の移植レジストリーを用いた新
規骨髓腫の自家造血細胞移植成績,
Worldwide Network for Blood
and Marrow Transplantation
Global Study

助成金額 500,000円

◇ロート女性健康科学研究賞

第16回ロート女性健康科学研究賞

・氏 名 大須賀智子(産婦人科学講座・教授)

研究題目 POI早期診断からART成績向上
に資するトランスレーショナルリ
サーチへの展開

助成金額 1,700,000円

◇公益財団法人UBE学術振興財団

第65回渡辺記念特別奨励賞

・氏 名 丸山健太(薬理学講座・教授)

研究題目 侵害受容システムを介したRNAウイ
ルス免疫寛容機構の解明と応用

助成金額 1,200,000円

◇PDRファーマ株式会社 研究者主導研究

・氏 名 田口宗太郎（パーキンソン病総合
治療センター・助教）
研究題目 パーキンソン病診断の新たなエビデ
ンス：MIBG心シンチグラフィー標
準化解析の検証ならびにPDと関連
疾患を鑑別するための最適なカット
オフ値の確立
助成金額 941,176円

◇一般社団法人日本リウマチ学会

高齢発症関節リウマチの適正医療に資する研究推
進プログラム
・氏 名 武井玲生仁（内科学講座(呼吸器・
アレルギー内科)・講師）
研究題目 高齢発症関節リウマチ関連間質性
肺疾患における簡便運動負荷試験
を用いた非侵襲的臨床指標の確立
助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団

2025年度国内研究助成（継続）

・氏 名 永沢亮（感染・免疫学講座・助教）
研究題目 微生物の寒天培地環境への適応機
構に着目した水環境微生物の分離
培養効率化
助成金額 1,000,000円

◇公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金
研究助成

・氏 名 丸山健太（薬理学講座・教授）
研究題目 慢性腎臓病における「神経ペプチド
病因仮説」の提唱
助成金額 1,000,000円
・氏 名 神農英雄（周産期母子医療セン
ター・講師）

◇日本アルコン株式会社

Alcon Japan Award for Young Investigators 2025

・氏 名 坪井孝太郎（眼科学講座・講師）
研究題目 高解像度OCTと組織学的解析によ
る網膜新生血管発生機序の解明
助成金額 2,500,000円

研究題目 新生児脳傷害に対する水素ガス吸
入の脳保護メカニズムの解明と治
療法開発への展開
助成金額 1,000,000円

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



猪狩 裕紀

学位授与番号 甲709号

学位授与年月日 令和7年5月8日

論文題目：「Classifying chronic pain
using ICD-11 and questionnaires-

reported characteristics in Japanese patients with
chronic pain (ICD-11と質問票を用いた慢性疼痛の
分類－慢性疼痛を有する日本人患者に報告された特
徴)」



安藤 与里子

学位授与番号 乙441号

学位授与年月日 令和7年5月8日

論文題目：「Clinical utility of botulinum
toxin type A local injection therapy

for head and forehead hyperhidrosis (頭部、前額
部多汗症におけるA型ボツリヌス毒素局注療法の有
効性について)」

令和7年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和7年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
学術変革領域研究(A)	宮田 淳 医学部 精神科学講座, 教授	7,300 (継続)	2,190	中脳－線条体の予測誤差・サリエンスの機能的・構造的局在から妄想・幻覚を解明する
挑戦的研究(開拓)	丸山 健太 医学部 薬理学講座, 教授	5,000 (継続)	1,500	腸管内RNAによる大腸癌進展調節機構の解明と応用
挑戦的研究(萌芽)	岩崎 研太 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 准教授	1,900 (継続)	570	ヒトnaive B細胞から抗原特異的抗体産生細胞をin vitroで作成する画期的手法の開発
基盤研究(B)	都築 忍 医学部 生化学講座, 教授(特任)	3,100 (継続)	930	隠れドライバーから見た、難治性リンパ性白血病の成立・維持機構の解明
〃	内藤 宗和 医学部 解剖学講座, 教授	2,800 (継続)	840	超微細気泡を用いた虚血再灌流障害の軽減方法の確立
〃	曾根 淳 加齢医科学研究所 講師	2,800 (継続)	840	神経核内封入体病の病態解明と根本的治療法の開発
〃	林 櫻松 医学部 公衆衛生学講座, 教授(特任)	2,800 (継続)	840	血液プロテオーム解析による膵がん早期発見のためのバイオマーカーの探索・同定
〃	高木 秀和 医学部 感染・免疫学講座, 准教授(特任)	3,600 (継続)	1,080	なぜ特定の地域だけに人獣共通感染マラリアの再興が起こるのか
〃	岡田 洋平 加齢医科学研究所 神経IPS細胞研究部門, 教授	5,000	1,500	運動ニューロン疾患における骨格筋由来分子による神経変性機構の解明
基盤研究(C)	畑山 直之 医学部 解剖学講座, 准教授	500 (継続)	150	移植臓器の体外治療を目指した新たな生理活性ガス送達技術の確立
〃	大橋 渉 大学病院 臨床研究支援センター, 准教授	700 (継続)	210	教員の性犯罪と小児性愛障害の関係～教員免許状の欠格事由になり得るか?～
〃	幡野 その子 分子医科学研究所 助教	1,200 (継続)	360	間葉系幹細胞の機能を制御するコンドロイチン硫酸の構造
〃	佐藤 麻紀 医学部 IR室, 講師	1,300 (継続)	390	季節変動遺伝子の網羅的探索による冬季うつ病の解明
〃	山村 彩 医学部 生理学講座, 講師	1,400 (継続)	420	肺動脈性肺高血圧症におけるHippoシグナルの病態生理学的意義の解明
〃	松井 卓哉 医学部 生理学講座, 講師	600 (継続)	180	肺腺がん治療を指向した新規カルバゾールアルカロイドの制御系の解析と治療薬の開発
〃	伊藤 秀明 医学部 病理学講座, 講師	900 (継続)	270	粘表皮癌におけるΔNp63陽性細胞先導による分子浸潤メカニズムの解明
〃	中村 律子 医学部 病理学講座, 講師	900 (継続)	270	乳管形成および早期乳癌浸潤阻害における分子機構の解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
基盤研究（C）	山崎達也 医学部 感染・免疫学講座，講師	1,700 (継続)	510	トル様受容体RP105特異抗体を基盤とした遺伝子ワクチンアジュバントの開発
〃	笠井謙次 医学部 病理学講座，教授	900 (継続)	270	新規ユビキチン化酵素活性化因子ENTREPによるPD-L1修飾と腫瘍免疫制御機構の解明
〃	荒井潤 医学部 内科学講座（肝胆臓内科），准教授（特任）	1,100 (継続)	330	モノクローナル抗体を用いた自然免疫の賦活化による新規抗腫瘍治療法の開発
〃	藤内玄規 ALS治療研究開発部門，助教	1,100 (継続)	330	ALSにおける老化によるタンパク質品質管理機構の発現変化と病態への影響
〃	陸雄一 加齢医科学研究所 講師	700 (継続)	210	神経変性疾患におけるtau凝集とTDP-43凝集に共通した足掛かり分子の解明
〃	徳井啓介 大学病院 脳卒中センター，講師	700 (継続)	210	神経・筋オルガノイドを用いた運動ニューロン疾患の病態解明
〃	道勇学 名誉教授	700 (継続)	210	疾患iPS細胞を用いた筋萎縮性側索硬化症の効率的な病態解析・創薬基盤の構築
〃	山口奈緒子 医学部 薬理学講座，准教授	1,100 (継続)	330	うつ病モデルにおけるストレス性交感神経反応：HPA系による負の制御はあるか？
〃	下平政史 医学部 放射線医学講座，教授（特任）	900 (継続)	270	肺動静脈奇形に対する新たな塞栓術：内膨潤型ハイドロコイルによる標準治療の確立
〃	鈴木孝太 医学部 衛生学講座，教授	800 (継続)	240	時代・世代を超える健康～リアルワールドデータを用いたDOHaDの疫学的検討
〃	奥村彰規 医学部 感染・免疫学講座，講師	1,200 (継続)	360	B型肝炎ウイルス感染成立に必須な肝細胞内リン酸化シグナル経路の解明
〃	鬼無洋 医学部 内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科） 准教授（特任）	800 (継続)	240	過剰塩分摂取に起因するCKDにみられる炎症の全身臓器障害の病態解明
〃	小松孝行 客員教授	1,100 (継続)	330	モノネガウイルスに保存された抗インターフェロン機構の解明と治療薬の研究
〃	三嶋廣繁 医学部 臨床感染症学講座，教授	400 (継続)	120	腸内細菌が産生する脂肪酸によるウイルス性呼吸器感染症の制御とそのメカニズム解析
〃	石山宏平 医学部 外科学講座（腎移植外科），准教授	1,100 (継続)	330	ヒト乳歯歯髄幹細胞を用いた膵島オルガノイドによる画期的膵島移植プロトコルの開発
〃	大石大 医学部 救急集中治療医学講座，助教	1,200 (継続)	360	重症熱傷における血管透過性亢進機序の解明－細胞間接着分子クローデインの解析－
〃	高橋伸典 医学部 整形外科科学講座，教授	1,300 (継続)	390	ヒアルロン酸レセプター CD44の断片化阻害による，関節軟骨変性抑制効果
〃	佐々直人 医学部 泌尿器科学講座，教授	600 (継続)	180	人工知能を用いた腎がんの多様性と腫瘍微小環境を腫瘍生検とCTから予測する研究
〃	馬嶋剛 医学部 泌尿器科学講座，准教授	1,400 (継続)	420	MRIによる新規尿道血流測定法の開発と術後尿失禁の病態解明
〃	大須賀智子 医学部 産婦人科学講座，教授	1,200 (継続)	360	早発卵巣不全予測マーカー測定法開発と妊孕性温存療法への展開

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
基盤研究（C）	巨島文子 客員研究員	1,200 (継続)	360	ヒト嚥下筋の組織学的検討－多施設共同研究によるサルコペニアの嚥下障害の病態解明
〃	林寿来 医学部 生理学講座，講師	1,600 (継続)	480	細胞外小胞による網膜保護作用とその分子機序の解明
〃	古川洋志 医学部 形成外科学講座，教授	1,200 (継続)	360	リンパ節のマイクログラフトの実現化に向けた基礎的研究
〃	菱田朝陽 医学部 公衆衛生学講座，教授	1,000 (継続)	300	ゲノム情報と血中バイオマーカー統合による消化器・肺がんリスクモデルの構築
〃	川合紗世 医学部 公衆衛生学講座，講師	1,100 (継続)	330	行政主導の若年者向けピロリ菌感染対策による胃がん予防プログラムの検討
〃	佐藤ゆか 名誉教授	500 (継続)	150	新興感染症パンデミック初期段階における看護師のエンパワー促進要因とプロセス
〃	伴野勸 医学部 感染・免疫学講座，助教	1,300 (継続)	390	奇数鎖脂肪酸による快ストレス誘導依存的な抗炎症作用機序の解明
〃	仙石昌也 アドミッションセンター 教授	800 (継続)	240	作成プロセスから見たレポートライティング教育の評価手法に関する研究
〃	河合聖子 医学部 医学教育センター，准教授	600 (継続)	180	医学教育における新たな学修支援体制の確立を目指した探索的探究
〃	柿崎真沙子 医学部 衛生学講座，准教授（特任）	1,400 (継続)	420	初年次多職種連携教育の評価によるアンプロフェッショナル行動の予測
〃	緒方良至 客員研究員	1,200 (継続)	360	ストロンチウム収着剤を用いた環境水中の放射性ストロンチウム迅速分析法の開発
〃	兵頭寿典 医学部 生化学講座，准教授（特任）	1,200 (継続)	360	高効率・高精度を両立した新規ゲノム編集法TPN法の更なる効率向上を目指す特性解析
〃	都築豊徳 医学部 病理診断学講座，教授	500 (継続)	150	前立腺導管内癌における，導管内及び浸潤癌細胞の空間的トランスクリプトーム解析
〃	鈴木進 研究創出支援センター 教授（特任）	1,200 (継続)	360	がん局所におけるTreg免疫抑制機序に基づく新たなTreg標的がん免疫療法の開発
〃	宮田淳 医学部 精神科学講座，教授	1,100 (継続)	330	MRIと脳波による統合失調症とてんかん性精神病の皮質病態・E/Iバランスの解明
〃	藤井公人 医学部 外科学講座（乳腺・内分泌外科），教授（特任）	1,300 (継続)	390	乳癌組織の電気特性の解明と，それを予備知識としたマイクロ波画像化技術の確立
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学講座，講師	1,000 (継続)	300	MYRF遺伝子による可逆性大脳白質障害と発熱時異常言動の病態解明
〃	竹下覚 大学病院 周産期母子医療センター，講師	1,200 (継続)	360	SGA児の大脳皮質構造異常とトロンプオエチンによる神経予後改善を目指した治療戦略
〃	高村祥子 医学部 感染・免疫学講座，教授	1,400 (継続)	420	劇症肝炎を制御するTLR4賦活化機構の解明
〃	安藤博彦 医学部 内科学講座（循環器内科），教授（特任）	800 (継続)	240	若年性心筋梗塞の一次予防策確立に向けた実装研究
〃	石本卓嗣 医学部 内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科），教授	1,300 (継続)	390	腎疾患におけるlncRNAの役割の解明と新規治療法の開発

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
基盤研究（C）	伊藤恭彦 医学部 内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科），特命教授	1,300 （継続）	390	内皮細胞Glycocalyx特にヒアルロン酸に着目した腎疾患の病態解明と臨床応用
〃	高見昭良 医学部 内科学講座（血液内科），教授	1,000 （継続）	300	NKG2D 3'UTR miR-1245結合領域遺伝子改変高活性型NK細胞の作製と応用
〃	神谷英紀 医学部 内科学講座（糖尿病内科），教授	900 （継続）	270	糖尿病性多発神経障害におけるグルコース応答性ATP感受性Kチャネルの役割の解明
〃	永井尚子 分子医科学研究所 助教	1,000 （継続）	300	脳へのレプチン送達制御におけるヘパラン硫酸機能の解明
〃	中村二郎 名誉教授	900 （継続）	270	糖尿病・前糖尿病状態における腸管神経系障害が迷走神経活動と腸管糖新生に及ぼす影響
〃	野田貴幸 大学病院 薬剤部，薬剤師	1,100 （継続）	330	ヒト化マウスを用いたドナー特異的抗体産生核酸の同定・機能解明と診断治療への応用
〃	尾関直樹 医学部 外科学講座（呼吸器外科），准教授	500 （継続）	150	サルコペニア合併肺癌に関わる炎症・免疫制御機構の解析
〃	伊藤英治 大学病院 頭蓋底外科センター，准教授	1,200 （継続）	360	難治性髄膜腫におけるがん免疫微小環境の解明
〃	若尾典充 医学部 整形外科科学講座，教授（特任）	1,200 （継続）	360	深層学習を用いた骨粗鬆症性椎体骨折診断および個別化治療プログラムの開発と検証
〃	寺嶋祐貴 医学部 疼痛医学講座，助教	200 （継続）	60	しびれ感の客観的評価としての新たな電気生理学的検査法に関する検討
〃	渡辺貝支 医学部 産婦人科学講座，教授	1,000 （継続）	300	妊娠高血圧腎症妊婦における腎障害の病態解明と将来の慢性腎不全発症リスクの検討
〃	各務秀明 医学部 歯科口腔外科学講座，教授（特任）	1,200 （継続）	360	アノイキス抑制と自己組織化による高機能「bioartificial living bone graft」の開発
〃	黒田佑次郎 医学部 衛生学講座，准教授	1,100 （継続）	330	認知症重症化予防を目指した多因子介入の有効性検証と社会実装
〃	菊地正悟 名誉教授	1,100 （継続）	330	便中抗原検査による中学生のピロリ菌検診一次検査の可能性
〃	橋本茜 看護学部 講師	1,000 （継続）	300	ヒューマンケアリング理論を基盤とした救急看護師メンタルヘルスケアプログラムの開発
〃	山本恵美子 看護学部 教授	400 （継続）	120	介護安全に向けた多職種連携教育－ポジティブアプローチによる組織支援モデルの開発
〃	尾川貴洋 医学部 リハビリテーション医学講座，教授	700 （継続）	210	サルコペニア高齢患者の筋肉量変化とマイオカイン動態に関する研究
〃	榊原伊織 医学部 生理学講座，講師	1,300 （継続）	390	エピゲノムを介した運動誘導性の骨格筋ファイバタイプ制御機構の解明
〃	小松紘司 医学部 生理学講座，講師	700 （継続）	210	オレイン酸が卵母細胞のミトコンドリア機能に及ぼす影響とその作用メカニズムの解明
〃	稲垣秀晃 客員研究員	1,100	330	難治性の痛みの心理的要因研究に必要な超音波発声を利用した動物実験モデルの確立

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
基盤研究（C）	小西裕之 医学部 生化学講座，教授（特任）	1,500	450	高性能な改良型CRISPR／Cas9ゲノム編集システムの確立と応用展開
〃	犬東歩 医学部 生理学講座，講師	1,200	360	小脳の炎症応答におけるオキシトシンの機能解明
〃	家崎高志 医学部 生理学講座，助教	900	270	ユビキチンリガーゼSmurf2による骨関節疾患治療法開発研究
〃	木村元哉 大学病院 神経内科，助教（医員助教）	1,100	330	急性期Branch Atheromatous Disease患者のCYP2C19を踏まえた至適抗血小板療法の確立
〃	小林孝 分子医科学研究所 助教	1,200	360	多能性幹細胞の分化制御におけるヘパラン硫酸の役割
〃	大橋明子 大学病院 病理診断科，講師	900	270	エストロゲン依存・非依存乳癌における転写制御因子の解析
〃	笹倉寛之 医学部 生物学，特別研究助教	1,300	390	中枢神経機能回復に向けての次世代シナプスコネクターの展開
〃	大西紘二 医学部 病理学講座，講師	900	270	がん患者のリンパ節マクロファージに着眼した新規バイオマーカーの探索
〃	熱田直樹 医学部 内科学講座（神経内科），教授	1,400	420	孤発性筋萎縮性側索硬化症の臨床ゲノム多様性，iPS細胞表現型と神経病理像との関連
〃	増渕悟 医学部 生理学講座，教授	1,400	420	ヒト睡眠覚醒リズムモデルとしての時計遺伝子に依存しないカフェインによるリズム
〃	奥村彰久 医学部 小児科学講座，教授	1,100	330	リキッドバイオプシーを用いたけいれん重積型脳症の早期診断バイオマーカーの探索
〃	伊藤嘉規 医学部 小児科学講座，教授（特任）	1,400	420	ウイルス全ゲノム・miRNA解析による先天性サイトメガロウイルス感染症の包括的解析
〃	垣田博樹 大学病院 周産期母子医療センター，准教授	1,400	420	低体温療法を応用したグリアの機能制御による新生児脳室周囲白質軟化症の新規治療法
〃	山田恭聖 大学病院 周産期母子医療センター，教授	1,300	390	HPA axisの変容，グリア機能異常を介しての痛み，母子分離による新生児脳障害の解明
〃	伊藤理 医学部 内科学講座（呼吸器・アレルギー内科），教授	1,400	420	難治性自己免疫性肺胞蛋白症の病態解明と治療法確立を目標とした研究基盤構築
〃	三輪祐子 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座，助教	1,300	390	腎移植における難治性BKV腎症の予防と治療に必要な免疫学的ミスマッチの解明
〃	中山享之 大学病院 輸血部，教授	1,000	300	慢性DICの病態解明と適切な治療法開発：XIII因子とDOACに着目して
〃	花村一郎 医学部 内科学講座（血液内科），教授（特任）	1,200	360	プライム編集と化合物ライブラリーを利用したRAS変異骨髄腫に対する新規治療法の開発
〃	山口真 大学病院 腎臓・リウマチ膠原病内科，准教授（特任）	1,000	300	ANCA関連血管炎における血管内皮障害に着目した新規バイオマーカーの同定
〃	萩原真生 医学部 分子疫学・疾病制御学寄附講座，准教授	1,100	330	ウイルス性呼吸器感染症に対する宿主細菌叢内の酪酸菌が果たす役割の解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
基盤研究（C）	姫野龍仁 医学部 内科学講座（糖尿病内科），准教授	1,500	450	糖尿病性多発神経障害におけるinsulin－Notch 連関の異常と再生機構の破綻
〃	安次嶺聡 医学部 外科学講座（腎移植外科），准教授（特任）	1,400	420	ドナー由来ペプチドを同定し抗体関連型拒絶反 応から移植腎を守る新戦略
〃	シバスダランカルナン 医学部 生化学講座，講師	1,100	330	NF2／p16INK4a欠失を伴う中皮腫に対する抗 癌剤併用療法の開発
〃	大須賀浩二 看護学部 教授	1,300	390	脊髄損傷後の歯髄幹細胞治療における活性化 astrocyteでのapoptosisの発生機序の解明
〃	河田賢 大学病院 腎移植外科，助教（医員助教）	1,800	540	異種腎移植における免疫原性peptideの検索と T細胞応答の評価
〃	三木篤也 医学部 近視進行抑制寄附講座，教授（特任）	1,900	570	リスク因子に着目した緑内障マイクロシャント 手術の改良
〃	宮崎英隆 大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科，准教授	2,900	870	超高倍率解像型毛細血管スコープを用いた非侵 襲的診断法の確立と顎口腔領域への応用
〃	山中真 看護学部 教授	1,900	570	看護師のデスクワーク時間と腰痛の実態調査－ 長時間座位による姿勢変化と腰痛－
〃	青山恵美 看護学部 准教授	1,400	420	医療施設内での結核接触者健診対象者の適正範 囲の解明～マルチレベル分析を用いて～
〃	山幡朗子 看護学部 准教授	600	180	過敏性腸症候群患者の生活習慣改善を促す看護 援助プログラムの開発と実装化の試み
〃	林文子 看護学部 講師	700	210	出産恐怖感と分娩アウトカム（出産満足度・産 後うつ病）の関連：前向きコホート研究
〃	山本弘江 看護学部 准教授	800	240	父親の産後うつの様相の解明と家族支援方策の 検討
〃	伊藤寿英 看護学部 助教	600	180	訪問看護師における在宅療養者安全を高める地 域支援システムの開発
若 手 研 究	塩入達政 分子医科学研究所 助手	400 （継続）	120	I型アレルギー反応の決定的セルグリシン：肥 満細胞分泌顆粒への輸送機構
〃	西須大徳 医学部 運動療育センター，助教	200 （継続）	60	神経機能評価による三叉神経痛・三叉神経ニュー ロパチーの治療予測の確立
〃	吉本隆明 大学病院 精神神経科，助教	700 （継続）	210	心理課題を用いた機能的MRIによる統合失調症 における幻聴の神経基盤の解明
〃	成田晶子 医学部 放射線医学講座，講師	1,700 （継続）	510	ハイドロゲル特性を活用した薬剤溶出能を有す る血管塞栓コイルの開発
〃	田中博之 医学部 内科学講座（呼吸器・アレルギー内科），准教授	800 （継続）	240	肺泡マクロファージ解析による肺泡蛋白症の病 態進行機序の解明
〃	森田奈央子 医学部 感染・免疫学講座，助教	1,100 （継続）	330	ヒトRSウイルスの病原性とインフラマソーム 活性化機構
〃	三浦絵美梨 医学部 内科学講座（糖尿病内科），講師	500 （継続）	150	クローン性造血と糖尿病性神経障害
〃	川口礼雄 研究員	700 （継続）	210	慢性硬膜下血腫術後のアポトーシス活性化機序 の解明と新規治療法の確立

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
若 手 研 究	森一直 大学病院 NP部, 看護師	500 (継続)	150	診療看護師 (NP) と特定行為研修修了者の協働実践ケアモデルの構築
〃	名仁澤英里 医学部 解剖学講座, 助教	1,700 (継続)	510	超早期NASH病態モデルを用いた疾患発症メカニズムの解明
〃	福重香 医学部 解剖学講座, 講師	1,000 (継続)	300	生理活性ガス含有ナノ気泡による効率的な再生医療用細胞の培養技術構築
〃	赤木明生 加齢医科学研究所 講師	700 (継続)	210	孤発性Creutzfeldt-Jakob病の異常プリオン蛋白の局在と動態の解明
〃	小野寺一成 加齢医科学研究所 神経IPS細胞研究部門, 助教	1,800 (継続)	540	転写制御異常から迫る球脊髄性筋萎縮症の病態解明
〃	藤田貢平 医学部 精神科学講座, 助教	400 (継続)	120	聴覚誘発電位を用いたECT治療の評価
〃	井上匡央 医学部 内科学講座 (肝胆臓内科), 准教授	1,200 (継続)	360	膵癌に対する内視鏡的不可逆電気穿孔法を基軸とした新規低侵襲治療法の開発
〃	浅井信博 医学部 臨床感染症学講座, 准教授	2,300 (継続)	690	腸内細菌叢由来の代謝物解析によるRSウイルス感染症の機序の解明と新規治療法の開発
〃	玉置優貴 医学部 解剖学講座, 助教	1,200 (継続)	360	肝細胞移植後の生着と肝機能回復に関わる因子の解明: 肝細胞移植の適応拡大を目指して
〃	苛原隆之 大学病院 救命救急科, 准教授	1,000 (継続)	300	重症患者に対する急性期栄養療法における有効な治療的介入の探索
〃	坪井孝太郎 医学部 眼科学講座, 講師	2,400 (継続)	720	In vivoイメージングと組織学的解析による網膜新生血管発生機序の解明
〃	国村彩子 大学病院 循環器内科, 講師	2,000 (継続)	600	体組成評価指標としてのアディポカイン, マイオカインと冠動脈疾患予防への応用
〃	篠壁多恵 医学部 公衆衛生学講座, 講師	800 (継続)	240	食物繊維・脂肪酸摂取や遺伝子多型が腹部肥満に与える影響
〃	板津良 看護学部 講師	200 (継続)	60	ICUにおける薬剤耐性菌MRSA持込に関する危険因子の多施設研究と伝播予防策の構築
〃	竹内堂朗 医学部 解剖学講座, 助教	700	210	バイオ医薬品の生産性向上に向けたウルトラファインバブルの応用
〃	三岡裕貴 大学病院 血管外科, 講師	1,900	570	皮膚硬度に着目した乳がん治療関連リンパ浮腫の早期診断方法の開発
〃	内野かおり 医学部 内科学講座 (血液内科), 講師	1,000	300	造血細胞移植における白血球TLR-腸管免疫-腸内細菌叢ネットワークの解明
〃	鄭羽仲 加齢医科学研究所 神経IPS細胞研究部門, 助手	1,800	540	疾患特異的iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の三次元ヒト疾患モデル構築と病態解明
〃	下田博美 医学部 内科学講座 (糖尿病内科), 助教	1,900	570	SGLT2阻害薬の臓器保護効果におけるGcg由来ペプチドとFoxQ1 / FoxO1 / DEPP1経路の役割
〃	西塔誠幸 大学病院 乳腺・内分泌外科, 助教 (医員助教)	1,400	420	細胞外マトリックス成分の発現動態から見た甲状腺癌転移浸潤機構の解明
〃	大橋禎史 大学病院 整形外科, 講師	1,400	420	続発性変形性関節症への新規アプローチ-解糖系阻害剤は新規治療薬になり得るか?-

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
若 手 研 究	後藤瑛一 医学部 解剖学講座，助教	1,400	420	真菌性角膜炎に対する可溶性フィルム製剤の開発
〃	松尾友仁 医学部 法医学講座，講師	1,100	330	効率的な抱合体加水分解による新規前処理法を用いた尿中薬毒物LC-MS / MS分析法の開発
〃	有馬隆紘 医学部 外科学講座（血管外科），助教	3,200	960	特定看護師による処置の安全性と治療効果の検討
〃	大塚俊 医学部 解剖学講座，講師	1,600	480	深筋膜の肥厚過程とそのメカニズム解明による身体機能の評価指標の確立
〃	石田優利亜 大学病院 栄養部，管理栄養士	2,300	690	GLIM基準における浮腫の影響と低栄養診断の包括的アプローチ
研 究 活 動 ス タ ー ト 支 援	後藤瑛一 医学部 解剖学講座，助教	500 (継続)	150	3Dバイオプリンターと生体適合性材料HPMCを適用した抗真菌薬含有眼科用パッチの開発
研 究 成 果 公 開 促 進 費	土本純 研究創出支援センター 助教	500	0	オーダーメイド医療ってなんだろう？－病気の治療に役立つ医学研究を体験してみよう－
特 別 研 究 員 奨 励 費	福島拓 特別研究員（DC3）	1,400	0	運動を介した筋線維変化誘導と筋記憶メカニズムの解明

- ・令和7年7月1日時点の情報を掲載。
- ・研究種目及び課題番号順にて記載。
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載。
- ・「交付申請書」及び「支払請求書」を基に作成。
- ・基金については、今年度請求額を記載。
- ・研究活動スタート支援（新規）は交付決定次第記載予定。

令和7年度厚生労働科学研究費・ 厚生労働行政推進調査事業補助金交付決定

令和7年度厚生労働科学研究費・厚生労働行政推進調査事業費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	神谷英紀 医学部 内科学講座（糖尿病内科），教授	4,020	1,205	糖尿病性合併症の評価法・管理法の確立
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	西原真理 大学病院 疼痛緩和外科，教授（特任）	2,900	800	HPVワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査とその対応方法に関する研究
慢性の痛み政策研究事業	牛田享宏 医学部 疼痛医学講座，教授	7,700	2,300	痛覚変調性疼痛を有する慢性疼痛患者の心理社会的背景の分析と社会復帰・居場所づくりを推進する研究
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	三鴨廣繁 医学部 臨床感染症学講座，教授	6,090	660	梅毒をはじめとする性感染症に関する実態把握及び対策の立案や評価に資する研究
難治性疾患政策研究事業	曾根淳 加齢医学研究所 講師	4,074	1,222	神経核内封入体病患者の診療ガイドライン作成に向けた実態調査および調査研究
難治性疾患政策研究事業	奥村彰久 医学部 小児科学講座，教授	4,074	1,222	早産児ビリルビン脳症の診療指針の改訂と包括的診療体制の構築

- ・令和7年7月1日時点の情報を掲載。
- ・課題番号順にて記載。
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載。
- ・「交付申請書」を基に作成。

令和7年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託研究開発契約の締結

令和7年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され、次のとおり研究契約を締結しました。

（金額単位：円）

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
医療機器等研究成果展開事業	井上匡央 医学部 内科学講座（肝胆膵内科），准教授	65,000,000	内視鏡的胆管内バルーンアブレーション治療に関する研究開発
次世代がん医療加速化研究事業	丸山健太 医学部 薬理学講座，教授	13,000,000	Piezo 1 シグナルによる大腸癌の進展制御に関する研究開発
再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム	岡田洋平 加齢医科学研究所 神経iPS細胞研究部門，教授	39,000,000	運動ニューロン疾患におけるシナプスを介した神経変性機構の解明
医療機器等研究成果展開事業	大久保友人 医学部 解剖学講座，助教	13,000,000	安全性と簡便性を両立する肺痿修復技術の革新：生体付着性ナノファイバーシートの開発
創薬基盤推進研究事業	祖父江元 学長	36,900,000	筋萎縮性側索硬化症の大規模患者レジストリと患者iPS細胞を活用した産学共同新規創薬開発研究（AMED拠出分）
創薬基盤推進研究事業	祖父江元 学長	22,000,000	筋萎縮性側索硬化症の大規模患者レジストリと患者iPS細胞を活用した産学共同新規創薬開発研究（企業拠出分）

- ・ 令和7年7月1日時点の情報を記載。
- ・ 委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・第36回臨床微生物迅速診断研究会総会
- ・第36回嚥下障害臨床研究会
- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会第72回中部地方部会連合会

【開催日】

令和7年6月27日(金)・28日(土)
令和7年7月5日(土)・6日(日)
令和7年7月19日(土)・20日(日)

【会長等】

三嶋 廣繁
藤本 保志
藤本 保志

第36回臨床微生物迅速診断研究会総会

臨床感染症学講座・教授 三嶋 廣繁

令和7年6月27日(金)・28日(土)の2日間にわたり、岐阜市文化産業交流センターじゅうろくプラザにおいて、第36回臨床微生物迅速診断研究会総会を開催させていただきました。学術集会のテーマは、「原点回帰～ Diagnostic stewardshipの重要性を考える～」とさせていただき、昨今社会問題にもなっている薬剤耐性菌の診断・治療並びに感染症制御を中心にプログラムを構成致しました。参加者は例年の2倍以上の200名を超え盛会となりました。

学術集会では、一般口演題15題、特別講演2題、教育講演1題、教育セミナー8題、ランチョンセミナー3題、コーヒープレイクセミナー4題が発表され、活発な質疑・討論も行われました。



壇上での記念撮影

本学術集会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援を賜りましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第36回嚥下障害臨床研究会

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座・教授 藤本 保志

令和7年7月5日(土)・6日(日)の2日間にわたり、名古屋市の今池ガスビルにおいて、第36回日本嚥下障害臨床研究会を開催しました。本年からはハイブリッド開催をやめ、現地開催のみと致しましたが、オンデマンド配信は残しました。

本会は耳鼻咽喉科医、リハビリテーション科医、脳神経内科医、歯科医、言語聴覚士、看護師、管理栄養士など多彩な職種、多診療科が集まる全国的な研究会です。1演題当たり20分と、討論時間を十分に取ることが特色で、診断から基礎研究、手術治療からリハビリテーションまで多彩な話題で17演題あり、活発な討論が行われました。

本学リハビリテーション医学講座の尾川貴洋教授による「全身を診るリハビリテーション診療が導く摂食嚥下障害への新たなアプローチ」と題した特別講演は大きな反響がありました。参加者数は177名と、COVID-19以前に匹敵する参加者に恵まれました。運営においては本診療科医局のみならず、病院嚥下チームの皆さまの大きなバックアップをいただきました。

本研究会開催に当たっては、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からのご支援をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会

第72回中部地方部会連合会

令和7年7月19日（土）・20日（日）の2日間にわたり、ウインクあいちにおいて、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会第72回中部地方部会連合会を開催しました。本会は中部9県14大学が参加する学会で、今年は交通至便な会場であったことから、早朝から例年より多くの参加者が来場しました。参加者数は近年最多の190名に上り、非常に充実した学会となりました。

一般演題は26題で耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の幅広い話題が提供されました。特別講演では、本学臨床感染症学講座の三嶋廣繁教授に「嫌気性菌の臨床的意義を再考する」と題してご講演いただき、最先

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座・教授 藤本 保志 端の知見を分かりやすく紹介いただいたことで、大きな反響を呼びました。ランチョンセミナーでは、頭頸部癌に対する光免疫治療をテーマに、名古屋大学・鳥取大学から治療上の工夫や留意点が示されました。懇親会も盛況で、中部各大学の交流と親睦が深まりました。

本学会の開催に当たっては一般財団法人愛知医科大学愛恵会から大きなご支援をいただきました。また、同窓の皆さまのご支援もいただき、円滑な運営が可能となりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

公印規程の一部改正

学校法人愛知医科大学公印規程の一部が改正され、看護学部附属ヘルスケア共創センター設置に伴い必要な公印が整備されました。

施行日は令和7年4月1日

看護学部履修規程の一部改正

愛知医科大学看護学部履修規程の一部が改正され、令和8年度カリキュラム改正等に伴い、授業科目、単位数、年次配当等が改められました。

施行日は令和8年4月1日

大学院学則の一部改正

愛知医科大学大学院学則の一部が改正され、大学院学生の秋入学制度を導入するにあたり、必要な事項が整備されました。

施行日は令和7年6月1日

高難度新規医療技術を用いた 医療提供に関する規程の一部改正

愛知医科大学病院高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する規程の一部が改正され、部門長の選任に係る事項が改められました。

施行日は令和7年4月1日

インフォームド・コンセントの適切な 実施に関する規程の一部改正

愛知医科大学病院インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の一部が改正され、インフォームド・コンセントの対象、代諾者等に関し必要な事項が改められました。

施行日は令和7年6月1日

診療録管理規程の一部改正等

診療録の管理運用方法及び開示する診療情報の対象を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院診療録管理規程
- ・愛知医科大学病院診療情報の開示に関する規程

施行日はいずれも令和7年7月1日

リハビリテーション部運営委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院リハビリテーション部運営委員会規程の一部が改正され、委員会の構成員が改められました。

施行日は令和7年6月1日

看護師特定行為研修管理規程の一部改正

愛知医科大学病院看護師特定行為研修管理規程の一部が改正され、既修得科目の履修免除制度及び科目ごとの受講料が整備されました。

施行日は令和7年7月1日

メディカルセンターゾーニング検討委員会規程の制定

愛知医科大学メディカルセンターゾーニング検討委員会規程が制定され、メディカルセンターにおける診察室、会議室等を効率的に運用するための体制が整備されました。

施行日は令和7年7月1日

編集後記

☆ 日本語には一つの漢字の読み方が複数あります。その例である「令和七年七月七日七夕」を、皆さんはどのように過ごされたでしょうか。「令和」は、西暦645年に定められた「大化」から数えて248個目の元号です。中には7年未満で改元された元号もあり、「七」のバリエーションを楽しめる機会は意外に少ないのかもしれません。時折りは夜空を眺めてゆっくりしながら、猛暑を乗り越えられる身体を養っていきましょう。

【総務広報課】

学報の送付を辞退される方は、総務広報課までご連絡ください。



X



Instagram

愛知医科大学公式SNS (@aichi_med_u) では
大学・病院の最新情報を発信中です。

愛知医科大学学報 第179号

発行年月日 令和7年7月31日

発行 学校法人 愛知医科大学

発行人 祖父江 元

編集人 長谷川 洋

連絡先 〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

愛知医科大学事務局総務部総務広報課

☎ (0561) 62-3311 (代表)

☎ (0561) 62-1063 (直通)